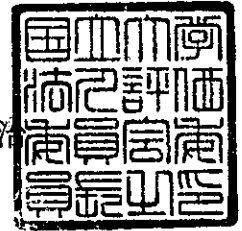


20国評委第6号
平成21年3月26日

各国立大学長 殿

国立大学法人評価委員会委員長

野 依 良 洋



(印影印刷)

中期目標期間の業務の実績に関する評価の結果について (通知)

国立大学法人評価委員会では、このたび、貴法人の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果をとりまとめましたので、その結果を通知します。

本件担当

文部科学省高等局国立大学法人評価委員会室
(遠藤、宮川)

TEL : 03-5253-4111 (2002)

FAX : 03-6734-3388

中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果

九州大学

平成21年3月

国立大学法人評価委員会

目 次

平成20年度に国立大学法人評価委員会が実施した国立大学法人の中期目標期間に係る業務 の実績に関する評価について	1
国立大学法人九州大学の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果	7
1 全体評価	7
2 項目別評価	8
I. 教育研究等の質の向上の状況	8
II. 業務運営・財務内容等の状況	16
【独立行政法人大学評価・学位授与機構が実施した現況分析】	
学部・研究科等の教育に関する現況分析結果	19
学部・研究科等の研究に関する現況分析結果	153
意見申立てへの対応	235

平成 20 年度に国立大学法人評価委員会が実施した国立大学法人の 中期目標期間に係る業務の実績に関する評価について

評価の目的

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人の中期目標期間の業務実績評価に係る実施要領（平成 19 年 4 月国立大学法人評価委員会決定、平成 20 年 3 月一部改正）」（以下、「実施要領」）に従い、国立大学法人法第 35 条により準用される独立行政法人通則法第 34 条に基づく「中期目標に係る業務の実績に関する評価」の基本をなすものとして、国立大学法人及び大学共同利用機関法人（以下、「法人」という。）の平成 16 年度から平成 19 年度までの 4 年間の業務の実績について、国立大学法人評価委員会（委員長：野依良治 独立行政法人理化学研究所理事長）が評価を行っています。

この国立大学法人評価は、

- (1) 法人の継続的な質的向上に資するとともに、法人の状況を分かりやすく示し、社会への説明責任を果たしていくこと、
 - (2) 教育研究の高度化、個性豊かな大学づくり、法人運営の活性化等を目指した法人の取組を積極的に支援することにより、長期的な視点から法人の発展に資するものとなること、
 - (3) 評価結果を踏まえて、各法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや中期目標・中期計画の検討に資するものとなること
- を目的として実施しています。

1 評価方法

国立大学法人評価は、大学等の教育研究の特性に配慮しつつ、各法人の自己点検・評価に基づき、教育研究の状況や業務運営・財務内容の状況等について、各法人毎に定められた中期目標の達成状況等の調査・分析を行い、法人の業務実績全体について総合的に評価を実施いたしました。したがって、本評価制度は、各法人間の相対比較をするものではないことに留意する必要があります。

このうち、教育研究の状況については、専門的な観点からきめ細かく評価を行うことが必要であることに配慮し、国立大学法人法に基づき、国立大学法人評価委員会が、独立行政法人大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）に対し評価の実施を要請し、当該評価の結果を尊重して評価を行っています。

(1) 法人における自己点検・評価

各法人は、実施要領等に従って、自己点検・評価を実施し、平成 16 年度から 19 年度までの期間の業務の実績に係る報告書を作成しました。

(2) 機構における教育研究の状況の評価

機構においては、教育研究の状況の評価として、「中期目標の達成状況の評価」及び「学部・研究科等の現況分析」を行いました。

中期目標の達成状況の評価は、「教育研究等の質の向上」の目標に係る「教育に関する目標」、「研究に関する目標」、「社会との連携、国際交流等に関する目標」の 3 項目（※大学共同利用機関法人については、「共同利用等に関する目標」を加えた 4 項目）について、各法人から提出された達成状況報告書等を調査・分析するとともに、訪問調査を実施し、書面では確認できなかった事柄等の確認を行いながら評価を実施しました。

学部・研究科等の現況分析は、①主要な教育研究組織毎に教育研究の水準や質の向上度を明らかにすることが、中期目標の達成状況を適切に判断するために必要であるとともに、②各法人の個性を伸ばし質を高める観点から、各法人が自主的に行う組織及び業務の検討や次期中期目標・中期計画の素案に関する検討に、評価結果を反映させるためにも必要であるとの趣旨で実施しました。各学部・研究科等における教育、研究の目的に照らし、「教育の水準及び質の向上度」「研究の水準及び質の向上度」について、各法人から提出された現況調査表等を調査・分析して評価を実施しました。

(3) 国立大学法人評価委員会における評価

国立大学法人評価委員会においては、「業務運営の改善及び効率化」、「財務内容の改善」、「自己点検・評価及び情報提供」、「その他業務運営に関する重要事項（施設設備の整備・活用、安全管理等）」の4項目について、各法人から提出された実績報告書等を調査・分析するとともに、学長・機構長等からのヒアリング、財務諸表等の分析も踏まえながら評価を実施しました。

教育研究等の状況については、機構における評価結果を基本的にそのまま受け入れつつ、国立大学法人評価委員会において附属病院及び附属学校の状況に関する評価を実施するとともに、定員超過の状況の確認を行っております。

① 全体評価

- ・ 中期目標期間における業務実績の全体について、各法人の特性や項目別評価の状況を踏まえつつ、記述式により総合的な評価を行っております。

② 項目別評価

- ・ 「教育に関する目標」、「研究に関する目標」、「その他の目標」、「業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「財務内容の改善に関する目標」、「自己点検・評価及び情報提供に関する目標」、「その他業務運営に関する重要目標（施設設備の整備・活用、安全管理等）」の7項目（※大学共同利用機関法人については、「共同利用等に関する目標」を加えた8項目）については、以下の5種類により達成状況を示しております。なお、これらの水準は、各法人を通じた最小限の共通の観点を踏まえつつも、各法人の設定した中期目標に対応して示されるものであり、各法人間の相対比較をするものではないことに留意する必要があります。

「中期目標の達成状況が非常に優れている」

「中期目標の達成状況が良好である」

「中期目標の達成状況がおおむね良好である」

「中期目標の達成状況が不十分である」

「中期目標の達成のためには重大な改善事項がある」

2 評価体制

国立大学法人評価委員会の国立大学法人分科会、大学共同利用機関法人分科会の下に評価チームを設置して、調査・分析を行っております。評価チームとしては、国立大学法人分科会については、近隣地区の大学を担当する基本チーム及び附属病院の専門評価チームを、大学共同利用機関法人分科会については、各法人を担当するチームを設置して評価を行っております。

機構が行う教育研究の状況の評価については、機構の国立大学教育研究評価委員会の下に具体的な評価を実施するために、達成状況判定会議、現況分析部会及び研究業績水準判定組織を編成し、評価を行っております。達成状況判定会議は、各法人の規模・構成に応じた8つのグループを編成し、さらにグループ内に複数のチームを設置して評価を行っております。現況分析部会は、分野別の10の学系部会を設置して評価を行っております。研究業績水準判定組織は、科学研究費補助金の分類を基とした66の専門部会を設置して評価を行っております。

3 審議経過

【国立大学法人評価委員会における評価】

平成20年

- ・ 6月30日まで 各法人から実績報告書、財務諸表等の提出
- ・ 7月22日～8月7日 各評価チーム会議において実績報告書等の調査・分析
- ・ 7月29日～8月11日 各法人から業務の実績についてヒアリング（国立大学法人）
- ・ 9月1日 // （大学共同利用機関法人）
- ・ 12月8日～12月19日 各評価チーム会議において評価結果（骨子案）の検討

平成21年

- ・ 2月23日～2月27日 各評価チーム会議において評価結果（骨子案）の検討
- ・ 2月26日 大学共同利用機関法人分科会において評価結果（素案）の審議
（意見申立ての機会：3月6日～13日）
- ・ 3月6日 国立大学法人分科会において評価結果（素案）の審議
（意見申立ての機会：3月6日～13日）
- ・ 3月26日 国立大学法人評価委員会総会において評価結果（案）の審議・決定

【機構における教育研究の状況の評価】

平成19年

- ・ 4月6日 国立大学法人評価委員会から教育研究の状況の評価の実施の要請

平成20年

- ・ 7月～8月 書面調査
- ・ 9月2日～9月8日 現況分析部会（第1回）において評価結果（素案）の審議
- ・ 9月11日～9月30日 達成状況判定会議（第1回）において評価結果（素案）の審議
- ・ 10月14日～11月28日 法人への訪問調査
- ・ 12月1日～12月5日 現況分析部会（第2回）において評価結果（原案）の審議
- ・ 12月15日～12月19日 達成状況判定会議（第2回）において評価結果（原案）の審議

平成21年

- ・ 1月8日 国立大学教育研究評価委員会において評価報告書（原案）の審議
（意見申立ての機会：1月13日～30日）
- ・ 2月10日 意見申立審査会において意見申立の対応審議
- ・ 2月19日 国立大学教育研究評価委員会において評価報告書（案）の審議・決定
機構から国立大学法人評価委員会へ教育研究の状況の評価結果の提出

4 国立大学法人評価委員会委員（平成21年3月現在）

（委員） 17名

あらかわ まさあき 荒川 正昭	新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター長、 新潟県福祉保健部・病院局参与
いよし あつお ○飯吉 厚夫	中部大学総長
いけはた せつほ 池端 雪浦	前東京外国語大学長
えがみ せつこ 江上 節子	東日本旅客鉄道株式会社顧問、 大正製薬（株）監査役
かつかた しんいち 勝方 信一	教育ジャーナリスト
からき さちこ 唐木 幸子	オリンパス株式会社研究開発センター研究開発本部基礎技術部長
くさま ともこ 草間 朋子	大分県立看護科学大学長
ごとう しょうこ 後藤 祥子	日本女子大学長・理事長
つげ あやお 柘植 綾夫	芝浦工業大学長
てらしま じつろう 寺島 実郎	株式会社三井物産戦略研究所所長、 財団法人日本総合研究所理事長
とりい やすひこ 鳥居 泰彦	慶應義塾学事顧問、 日本私立学校振興・共済事業団理事長
なぐも みつお 南雲 光男	日本サービス・流通労働組合連合顧問
のより りょうじ ◎野依 良治	独立行政法人理化学研究所理事長
ひるた しろう 蛭田 史郎	旭化成株式会社社長、 経団連教育問題委員会共同委員長
みやうち しのお 宮内 忍	宮内公認会計士事務所所長
みやはら ひでお 宮原 秀夫	独立行政法人情報通信研究機構理事長
もりわき みちこ 森脇 道子	自由が丘産能短期大学長

（臨時委員） 3名

たち あきら 館 昭	桜美林大学大学院国際学研究科教授
やまもと きよし 山本 清	独立行政法人国立大学財務・経営センター研究部長
わだ よしひろ 和田 義博	和田義博会計事務所所長

※ ◎は委員長、○は委員長代理

国立大学法人評価委員会の下に置かれる国立大学法人分科会、大学共同利用機関法人分科会及び評価チームの委員については、文部科学省のウェブサイトをご覧ください。

5 大学評価・学位授与機構 国立大学教育研究評価委員会委員（平成 21 年
3 月現在）

（委員）30 名

あさの	せつろう	東京大学名誉教授
浅野	攝郎	
いいの	まさこ	津田塾大学長
飯野	正子	
いけだ	たかよし	長崎県立大学長
池田	高良	
おかだ	しゅうぞう	東京海上日動火災保険株式会社特別任命参与
岡田	修三	
かねだ	よしゆき	ソニー株式会社社友
金田	嘉行	
○北原	やすお	前日本学生支援機構理事長
保雄	せいじ	立正大学教授
きむら	靖二	
木村	ただひこ	東京女子医科大学顧問・名誉教授
こうづ	忠彦	
神津	みちかた	独立行政法人大学評価・学位授与機構評価研究部長
こうの	通方	
河野	まこと	独立行政法人日本学術振興会理事
こばやし	誠	
小林	たかお	学校法人帝塚山学院学院長
こだま	隆夫	
児玉	ふみひこ	放送大学教授
ごみ	文彦	
五味	やえこ	前東京都立九段高等学校長
さいとう	八重子	
齋藤	あきのり	東京大学名誉教授
すずき	昭憲	
鈴木	じゅんいち	駿河台大学教授
せと	純一	
瀬戸	あきら	桜美林大学教授
たち	昭	
館	のりひと	北海道大学名誉教授
たんぼ	憲仁	
◎丹保	ゆきや	株式会社 I H I 取締役
なかがわ	幸也	
中川	たけし	前NHK学園理事長
なかざと	毅	
中里	まさたか	兵庫教育大学名誉教授
なかす	正堯	
中洩	ひとお	九州大学名誉教授
なかの	仁雄	
はしもと	きみこ	京都府立南陽高等学校長
橋本	貴美子	
ひらまつ	かずお	関西学院大学教授
平松	一夫	
ひろべ	まさあき	前静岡県立大学長
廣部	雅昭	
ハンス ユーゲン・マルクス		学校法人南山学園理事長
まえはら	すみこ	京都橘大学看護学部長
前原	澄子	
まつおか	ひろし	帝塚山大学長
松岡	博	
まわたり	しょうけん	宮城大学長
馬渡	尚憲	
むた	たいぞう	福山大学長
牟田	泰三	
わだ	けいしろう	放送大学石川学習センター所長
和田	敬四郎	

※ ◎は委員長、○は副委員長

国立大学教育研究評価委員会の下に置かれる各種部会等の委員については、独立行政法人大学評価・学位授与機構のウェブサイトをご覧ください。

国立大学法人九州大学の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

九州大学は、伊都キャンパスへの統合移転と、新病院の建設という全学的な2つの大型プロジェクトを擁しながら、教育憲章、学術憲章に掲げられた使命・理念を具現化するために「4+2+4アクションプラン」、「5S運動」等の活動プランも着実に実施するとともに、教員組織の編制、人員管理方式、予算の学内配分方式についての改革を一体的に行う「三位一体の改革」を開始している。

中期目標期間の業務実績の状況は、「研究に関する目標」の項目で中期目標の達成状況が非常に優れているほか、それ以外の項目で中期目標の達成状況が良好又はおおむね良好である。業務実績のうち、主な特記事項は以下のとおりである。

教育については、多様な外国語科目の提供や英語科目における習熟度別クラス編成の導入、体験型授業科目を設置し社会との交流による実践的な教育の実施、アジア地域の大学との単位互換による国際的な学生交流の促進、ボランティア活動の単位認定制度の確立等の取組を行っている。

研究については、アジア総合政策センターの設置による地域文化に関する多彩な研究やアジアの様々な課題に取り組む研究の展開、戦略的教育研究拠点としての研究センターの設置、大型プロジェクトに対する全学的な支援体制としての特定研究支援部の設置、企業や公的機関との組織対応型連携の体制の構築等の取組を行っている。

社会連携・国際交流等については、社会人等に対し大学院への入学を支援する「再チャレンジ支援プログラム」の創設、九州地域の産業・経済・環境・市民生活等を通じた課題解決活動の実施、アジア学生交流プログラムの実施、アジア地域を中心とした発展途上国への協力事業の展開等の取組を行っている。

業務運営については、「4+2+4アクションプラン」、「5S運動」等の活動プランを着実に実施するために、学長を中心としたリーダーシップの確立や、教職員の意思の共有化を推進するなど、機能的な大学運営の体制構築のための諸施策を展開している。

財務内容については、個々の教員の外部資金獲得を支援する「教員研究費獲得支援プラン」や獲得実績による教員の報奨制度を実施するなど、外部資金の獲得に向け、様々な取組を行うとともに、教職員が出張する際に、ウェブサイト上で航空券の発行手続き等ができる旅費システム（Q-HAT）の活用による旅費の削減を図るなど、毎年度の経費削減に向けた取組も行っている。

情報提供については、教育活動に関する情報を広く社会に提供している。

施設設備の整備・活用等については、共通施設の情報をウェブサイト上で提供するための「共通施設スペース管理システム」、施設の性能評価やライフサイクルコストを算出するための「施設運営費評価システム」、光熱水量等のエネルギー使用量の管理をするための「エネルギー管理システム」を導入している。

2 項目別評価

I. 教育研究等の質の向上の状況

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 教育の成果に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由] 「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 教育内容等に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由] 「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（8項目）のうち、3項目が「良好」、5項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(3) 教育の実施体制等に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況が良好である

[判断理由] 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(4) 学生への支援に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況が良好である

[判断理由] 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、2項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画「充実した外国語教育により、国際化が一層進行する現代社会の様々な要求に応え得る能力の基盤を形成する」について、外国語教育の充実のため多様な外国語科目の提供や英語科目における習熟度別クラス編成を導入したことは、多種の第2外国語が幅広く履修され、また、単位修得状況・成績状況からみて教育効果の向上が確認される点で、優れていると判断される。
- 中期目標で「大学院において研究者及び高度な専門的知識・能力を持つ職業人を育成する」としていることについて、多数の教育プログラムが「魅力ある大学院教育」イニシアティブ等の支援事業にも採択されており、教育成果の向上に寄与するための様々な取組が意欲的に行われていることは、優れていると判断される。
- 中期目標「大学院課程：新しい学問的・社会的要請に柔軟かつ適切に対応しつつ、体系的な教育課程の整備と指導体制の改善を図る」について、全学の教育力を総合的に活用する共通教育プログラムの実施や各学府における英語による授業科目の開講が行われていることは、これら取組の一部が科学技術振興調整費戦略的研究拠点育成プログラム等に採択され、また、開講科目数や受講者数等からも実効的に機能していると認められる点で、優れていると判断される。
- 中期計画で「インターンシップなど、体験型の科目を設置する」及び「アジア地域の大学への留学を促進する」としていることについて、各学府とも体験型授業科目を設置し、社会との交流による実践的な教育を実施していることや、アジア地域の大学との単位互換を伴う国際的な学生交流の促進により交換留学生在が増大していること等、学外交流に基づく教育活動が活発に推進されていることは、優れていると判断される。
- 中期計画で「教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト（P&P）によって、教育内容等改善のための開発研究を支援する」としていることについて、P&P「大学院及び学部教育改善の支援」として、教育に関する重要課題を全学的に定めてその開発を支援し、終了課題については、研究成果発表会を実施することで開発成果を全学的に共有し有効に活用していることは、優れていると判断される。
- 中期目標「附属図書館は、新しい学術情報の在り方に適応する機能を備えるとともに、利用者のニーズに応じて効果的にサービスを提供する」について、電子的サービスの充実や電子的文献サービス提供数の増加、日韓間の文献サービスの活発な利用等、高い充実度を有する電子図書館機能が効果的に機能し、アジア重視の姿勢を反映した

アジアの大学図書館との交流活動が意欲的に行われていることは、優れていると判断される。

- 中期計画で「九州大学学生後援会を発展・充実させる」としていることについて、教職員と学生の保護者で構成されている九州大学学生後援会の募集努力等によって、九州大学学生後援会への加入率が増加傾向にあり、加入数が増加したことによって、奨学金枠の拡大、福岡県西方沖地震の被災学生支援等、支援活動が拡大していることは、優れていると判断される。
- 中期計画「学部生・大学院生の就職活動への相談体制、支援策を充実する」について、就職活動の相談及び支援に関する体制を法人化以後大幅に充実・強化し、就職相談件数の増加や博士人材に特化したキャリア支援等の多様な取組が、良好な就職状況につながっていることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画で「専門職大学院を整備・充実する」としていることについて、平成18年度から4つの専門職大学院により、それぞれの資源の相互有効活用を図る目的で、専門職大学院コンソーシアムを設置し、これにより専門職大学院の特色ある科目の相互履修等が実施されていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期目標で「高校教育から大学教育への接続、大学院教育への接続を視野に入れた、教育内容や実施形態の体系性を確保する」としていることについて、学士課程において、ボランティア活動の単位認定制度の確立、総合選択履修方式の実施、一定の制限を付した上で大学院開講科目を受講可能とするなど、総合大学の教育資源を柔軟に活用し、学生が多様な科目を履修できる環境を提供していることは、特色ある取組であると判断される。
- 教員組織編制に関して、学府・研究院制度を活用し、法務学府（法科大学院）の設置等、種々の柔軟な教員組織の運用を行っていることは、特色ある取組であると判断される。

(II) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が非常に優れている

【判断理由】 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況が非常に優れている

[判断理由] 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、2項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 研究実施体制等の整備に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況が良好である

[判断理由] 「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、3項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画で「地域文化の研究及び産官学共同研究などを通して、社会に資する研究を推進する」及び「アジアへの展開を目指した研究を展開する」としていることについて、地域社会との連携・協力を強化し、九州地域の産業・経済・環境・市民生活等に関する研究に取り組むことで、共同研究、技術移転等、産学連携関係の実績が年々増加していること、また、アジア総合政策センターを設置し、これを基軸に21世紀COEプログラムによる東アジアの大学と東アジア史研究コンソーシアムを構築するなど、アジア地域に隣接している九州地域という視点からの地域文化に関する多彩な研究やアジアの様々な課題に取り組む研究を展開していることは、優れていると判断される。
- 中期目標「国際的・先端的研究を遂行する機関として世界的に最高水準の中核的研究拠点を目指す」について、5つの戦略的教育研究拠点としての研究センターの設置、21世紀COEプログラムとして国家科学技術戦略に直結する事業に4件の採択、グローバルCOEプログラムとして2件の採択、経済産業省大型研究プロジェクトとして2件の採択、科学技術振興調整費による「先端融合医療レドックスナビ研究拠点」の採択、また21世紀COEプログラムを端緒とした「水素プロジェクト」（水素利用技術研究センターの設置、産業技術総合研究所との包括連携による研究開発事業、水素材料先端科学研究センター実験棟の設置）等、各種研究拠点が着実に形成されていることは、優れていると判断される。
- 中期計画で「九州大学と九州芸術工科大学それぞれの成果を基に、芸術的感性と諸科学が融合した研究領域の創造に取り組む」としていることについて、科学技術振興調整費によって「ユーザーサイエンス機構」が設置され、21世紀COEプログラム「感性に基づく人工環境デザイン研究拠点」において、感覚的特性の定着化をテーマに研

究と教育が行われ、その成果に基づき大学院修士・博士後期課程に「デザイン人間科学コース」が設置されたことは、優れていると判断される。

- 中期計画で「企業との組織対応型（包括的）連携研究を推進する」としていることについて、企業及び公的機関との組織対応型連携の体制を構築し、現在、50 機関との間で 43 件の多様な組織対応型連携による研究活動を活発に推進するとともに、地域中小企業等からの技術開発支援の要請に応える体制も構築したことは、優れていると判断される。
- 中期計画で「国際的中核的研究拠点を維持・発展させるための研究環境を整備する」としていることについて、大型研究プロジェクトに対する全学的な支援体制として、特定研究支援部を設置し、同部に所属する 5 つの支援室による一元的、機動的な支援が実施されており、また、世界トップレベルの研究施設として「水素材料先端科学研究センター実験棟」が設置され、産業技術総合研究所との連携により、水素プロジェクトの進展に寄与していることは、優れていると判断される。
- 中期目標「研究交流及び研究公開に関する情報システム環境を充実する」について、情報ネットワークを活用して学術情報を発信・活用するため、国内外からのアクセスが月 10 万件を超える「九州大学研究者情報」とリンクしながら、研究論文等の研究内容を直接に確認できるシステムとして、「九州大学 Seeds 集」や「九州大学学術情報リポジトリ（QIR）」を整備しており、また、附属図書館において、学内の研究成果物を収集・発信する機関リポジトリシステムを構築・運用し約 7,000 件を超えるコンテンツを登録し、実効的に機能していることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画で「海洋大気力学、プラズマ材料力学、及びそれらの基盤となる基礎力学に関する研究を全国共同利用研究として推進する」としていることについて、応用力学研究所における全国共同利用研究として、「力学」「大気海洋」「核融合・プラズマ」の 3 分野において、多数の全国共同利用研究を実施していること、また、国際共同研究を多数（32 件）実施していることは、特色ある取組であると判断される。

（Ⅲ）その他の目標

（1）社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1 項目）が「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況が良好である

[判断理由] 「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（10項目）のうち、5項目が「非常に優れている」、4項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期目標で「教育面における大学と社会との連携を強化する」及び「大学が保有する情報・施設等教育資源を広く社会に開放する」としていることについて、社会人等に対し大学院への入学を支援する「再チャレンジ支援プログラム」を創設し就学機会の拡大を図っていること、科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業を受託し博士人材に対するインターンシップを推進していること、福岡県図書館協会設立による加盟公共図書館等との相互貸借サービスが行われていること、図書館医学分館による患者家族支援サービス等の医療情報の提供を行っていること等、社会との連携に関する事業が積極的に展開され効果的に機能していることは、優れていると判断される。
- 中期目標「地域社会及びアジアを核とした国際社会との研究における連携・協力を推進する」について、九州地域の産業・経済・環境・市民生活等に関する共同研究等を通じて課題解決活動が実施されていること、九州大学学術研究都市推進機構（OPACK）の設立による水素キャンパス関連研究を展開していること、外国同窓会の設置やアジア重視の姿勢を反映した地域企業との協力によるアジア・海外ネットワークが強化されていることは、地域及びアジアとの連携に関する研究活動が活発に推進され実質的に機能している点で、優れていると判断される。
- アジアとの交流を中心とした国際交流事業に関して、平成16年度からアジア学長会議を主催しており、その参加大学との間でアジア学生交流プログラムを実施し、相互学生受入れ実績が着実に推移している。また、多数の国際会議・学会の開催、一般市民を対象としたアジア理解プロジェクトの実施等、アジア地域との交流も意欲的に推進されていることは、優れていると判断される。
- 中期目標で「教育における国際貢献の観点から、一層多くの資質の高い留学生を受け入れる」としていることについて、アジア学生交流プログラム、短期留学プログラム等の海外派遣・受入れ体制の整備・充実を行い、外国人短期留学コース JTW (Japan in Today's World) 等の留学プログラム受入れ・派遣学生数が平成16年度190名から平成19年度296名に増加しており、また私費・国費外国人留学生等の受入れ数も毎年度1,000名を超えていることは、優れていると判断される。
- 中期目標「拠点大学に相応しい規模と内容を持つ国際共同研究及び国際会議を積極的に推進することを通じて、世界規模での大学間の連携を強化する」について、国際

交流プロジェクトの拠点としてアジアの拠点校にブランチオフィスを設置し、日本学術振興会との連携協力による国際的共同研究を 10 機関との間で 7 件実施するとともに、加えて多くのシンポジウムやセミナーを開催していることは、教育研究活動の情報発信を推進し国際的連携の強化が図られている点で、優れていると判断される。

- 中期目標「アジアを中心とする開発途上国に対する教育研究、技術開発、人材育成を実践的・持続的に展開する」について、国際協力機構（JICA）や各種国際機関の協力事業として、国際協力機構との協力の下、歯学教育研修コースにおける研修生受入れや開発途上国への専門家派遣が毎年度一定の実績を維持して実施され、また、国際協力銀行（JBIC）が公示する事業へ採択されたことによる国際協力活動等、アジア地域を中心とした開発途上国への協力事業が意欲的に展開されていることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画で「インターネットを利用した遠隔教育等により、アジアにおける高度な教育を実施できる体制を整備する」としていることについて、交流協定締結校である忠南大学校を韓国側拠点校として拠点大学交流方式事業「次世代インターネット技術のための研究開発と実証実験」を実施していること、ビジネススクールにおいて中国及び韓国とのリアルタイム・オンデマンド授業を実施していることは、九州大学の掲げる「アジアにおける拠点大学としての役割」を果たしている点で、特色ある取組であると判断される。

（2）附属病院に関する目標

優れた医療人養成のために臨床教育研修センターにおいて、研修医への年 2 回の面接、研修医・診療科間相互による評価、多数のセミナー等を開催している。また、内視鏡外科手術トレーニングセンターの設置、海外を含めた医療施設のテレカンファレンスの実施、遺伝子治療の実施等、幅広い活動を行っている。診療では、臓器別診療科再編成、検査部門の一元化、クリティカルケアセンター等の総合的・集学的センターの設置と整備、クリティカルパスの充実、医療安全管理部の強化を行い、診療の質向上に努めている。

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 教育・研究面
 - ・ 臨床教育研修センターや内視鏡外科手術トレーニングセンター等を整備し、多彩な研修プログラムの充実や研修支援体制整備の充実を図っている。
 - ・ 高度先端医療センターを設置、トランスレーショナルリサーチを推進するための体制を整備している。また、研究専用病床 5 床を設置して、臨床研究（センダイウイルスベクターを用いた遺伝子治療臨床研究等）を実施している。
 - ・ 韓国の大学病院等と国際交流を締結して、病院業務相互評価や遠隔医療ネット

ワークを用いたテレビ会議を積極的に行っている。

- ・ 優れた研究者の養成のため、臨床研究従事者全員に講習会の受講を義務づけ、認定された者だけが臨床研究に参加できる「臨床研究認定制度」を導入している。

○ 診療面

- ・ 臓器別診療体制を整備するとともに、「禁煙外来」、「漢方外来」等、専門外来を開設している。また、「小児医療センター」においては、診察室や廊下を小児患者の立場にあわせたデザインによって、財団法人日本産業デザイン振興会のグッドデザイン特別賞を受賞している。
- ・ 救命救急センターの設置や脳卒中ホットラインを活用した救急患者の受入れ等、高度先進医療を担う大学病院としての役割を果たしている。

○ 運営面

- ・ 民間で広報活動業務の経験を持つ人材を特定業務専門職員として採用し、「開かれた病院」を実現するために、大学病院の取組を社会に対して積極的に情報発信している。
- ・ 病院長を専任化するとともに、病院長の下に5名の副病院長及び5名の病院長補佐を置き、「執行部会議」を毎週開催して病院の諸問題に機動的に対応できる体制を整備している。

II. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

- ① 運営体制の改善
- ② 教育研究組織の見直し
- ③ 人事の適正化
- ④ 事務等の効率化・合理化

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 中長期的ビジョンとして、総長が「4 + 2 + 4 アクションプラン」を提示し、① 4 つの重点活動分野の明確化、② 2 つの方向の大学将来構想の明確化、③ 評価に基づく資金、スペース、人、時間の 4 つの資源の支援、との経営指針を明らかにしている。また、職員の業務遂行の基準として、「責任、スピード、専門性、先見性、信頼」を掲げた「5 S 運動」を実施している。
- 教育研究組織について、「5 年目評価、10 年以内組織見直し」の原則により、組織の在り方について見直し、評価結果に基づいて組織の再構築を図っている。
- 大学全体の将来構想に基づいた戦略的計画的な運営を推進するため「九大版バランス・スコアカード (QUEST-MAP)」を策定するとともに、その手法を活用し、九州大学の現状及び将来の国内情勢等の分析を行い、各種の評価結果を踏まえて第 2 期の中期目標・中期計画の骨子を作成している。
- 部局長のリーダーシップの下、各部局が明確な将来構想に基づいた自律的な組織改革を可能とする「三位一体の改革」を実施している。
- 研究担当理事直属の研究戦略企画室において、研究情報交換・共同研究・競争的外部資金の申請等を積極的に推進し、大型プロジェクト等の外部資金獲得を推進するとともに、事務組織を改組し、外部資金関係事務を研究戦略課に統合し、研究支援業務を一体的に処理する体制を整備している。
- 女性教員の採用について、「男女共同参画の推進に向けての具体的方策等の実施計画 (3 カ年)」に基づき女性研究者支援プログラム出産・育児期研究助成制度の新設等するなど、積極的に採用を推進した結果、平成 19 年度の女性教員数は 192 名 (対平成 15 年度比 22 名増) となっている。
- 人事評価について、事務職員については、平成 19 年度に「事務系職員等業績等評価実施要領」を策定するとともに、評価の実施マニュアルを作成し、全学に周知している。また、教員については、平成 19 年度に評価結果の活用方法について、全学基本方針に明記しており、いずれも平成 20 年度から実施することとしている。今後、給与等処遇への反映に向けて、一層の推進が期待される。

【評定】 中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載 43 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- ① 外部研究資金その他の自己収入の増加
- ② 経費の抑制
- ③ 資産の運用管理の改善

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 外部資金獲得を戦略的目標として位置付け、個々の教員の競争的外部資金の申請・採択状況を把握し、教員研究費獲得支援プランによる若手研究者を対象とした説明会等を実施するとともに、学内における部局への予算配分において、科学研究費の応募状況を指標とした「傾斜配分」を実施するなどの取組により、受託研究、共同研究及び寄附金による外部資金は、平成 19 年度で 131 億 56 万円(対平成 16 年度比 55 億 6,072 万円増)に増加しており、外部資金比率は 11.7 % (対平成 16 年度比 3.9 % 増)となっている。また、科学研究費補助金は、平成 19 年度で 61 億 815 万円(対平成 16 年度比 4 億 3,308 万円増)となっている。
- 教職員が出張する際に、ウェブサイト上で航空券の発行手続き等ができる旅費システム(Q-HAT)を導入し、事務職員の利用率が 50 %を超えており、回数券等利用による大幅な経費削減となっている。
- 中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費削減が行われている。今後とも、中期目標・中期計画の達成に向け、教育研究の質の確保に配慮しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。

【評定】 中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載 14 事項すべてが「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- ① 評価の充実
- ② 情報公開等の推進

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 教員自らが自己点検の観点から自身の教育研究等活動を入力し公開する、大学独自のデータベース「大学評価情報システム」について、毎年度、入力内容等の充実を図っており、その内容の一部について、社会へのアカウンタビリティの観点から、「九州大学研究者情報」としてウェブサイト上で公開している。
- 事務局各課及び各部局に広報活動を担う「スポークスマン」を置き、全学的連携組

織である「広報部」を組織し、双方向の情報伝達体制を整備している。また、全国規模での情報収集・提供を目的とした「東京オフィス」に職員を配置し、広報体制の充実を図るとともに、今後の首都圏戦略に関わるすべてのステークホルダーに対しコンパクトで効率的な広報及び交流活動を展開するため、都心に「九州大学・芸術工学東京サイト」を開設している。

- カリキュラム等の教育活動に関する情報を広く社会に提供するため、ウェブサイト上に全学部・学府のシラバスを学外に公開している。

【評定】 中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載 12 事項すべてが「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

- ① 施設設備の整備・活用等
- ② 安全管理

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- キャンパス計画及び施設管理委員会の下、施設連絡会検討チームにより施設マネジメントについて検討し、共通施設の情報をウェブサイト上で提供するための「共通施設スペース管理システム」、施設の性能評価やライフサイクルコストを算出するための「施設運営費評価システム」、光熱水量等のエネルギー使用量の管理をするための「エネルギー管理システム」を導入し、運用を開始している。
- 薬品の使用履歴、在庫を一括管理する「化学物質（薬品）管理システム」を運用し、全学統一の管理体制を整備している。
- 研究費の不正使用防止のため、公的研究費の管理・監査の基本方針の制定をするとともに、研究費不正防止計画推進室、検収センターの設置及び研究費使用ハンドブックの作成等、体制、ルールの整備を行っている。

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

- 平成 19 年 7 月に、学生等の個人情報の流出及び医師が患者の情報を保存していたパソコンを紛失した事件が発生したが、再発防止に向けて、継続的な対応が求められる。

【評定】 中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載 21 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

1.	文学部	教育 1-1
2.	人文科学府	教育 2-1
3.	比較社会文化学府	教育 3-1
4.	教育学部	教育 4-1
5.	人間環境学府	教育 5-1
6.	実践臨床心理学専攻	教育 6-1
7.	法学部	教育 7-1
8.	法学府	教育 8-1
9.	法務学府	教育 9-1
10.	経済学部	教育 10-1
11.	経済学府	教育 11-1
12.	産業マネジメント専攻	教育 12-1
13.	理学部	教育 13-1
14.	理学府	教育 14-1
15.	数理学府	教育 15-1
16.	システム生命科学府	教育 16-1
17.	医学部	教育 17-1
18.	医学系学府	教育 18-1
19.	医療経営・管理学専攻	教育 19-1
20.	歯学部	教育 20-1
21.	歯学府	教育 21-1
22.	薬学部	教育 22-1
23.	薬学府	教育 23-1
24.	工学部	教育 24-1
25.	工学府	教育 25-1
26.	芸術工学部	教育 26-1
27.	芸術工学府	教育 27-1
28.	システム情報科学府	教育 28-1
29.	総合理工学府	教育 29-1
30.	農学部	教育 30-1
31.	生物資源環境科学府	教育 31-1

文学部

I	教育水準	教育 1-2
II	質の向上度	教育 1-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該学部内に 21 の専門分野を有し、人文科学としての幅広い教養の修得や多様な人材の育成といった、教育目的を達成する上で必要な体制を確保しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、全学的ファカルティ・ディベロップメント（FD）実施への参加者数が少ないことから、全体の動きに連動することが求められるが、教授会及び FD 委員会をはじめ複数の委員会によって教育内容・教育方法の改善に向けた取組が行われているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、幅広い人文的素養を身に付け、かつ専門的知識をも身に付けた人材を育成するという教育目的に沿った、幅広い視野からの教養教育科目と基礎科目からなる全学教育科目ときめ細かい専門教育科目を相互に連携させて体系的に配置し、4年一貫教育を実施している。学部での教育指針を明確にした文学部コア科目・コース共通科目・専門分野科目という科目区分とその多様な授業形態は、学習の段階的向上に資するものといえるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、入学後の学生の多様なニーズや社会からの要請等を真摯に受け止め、前者については単位の互換性や評価の多様化を実施し、後者については科目等履修生をはじめ、きめ細かい履修方法を提供するなどの具体的な対応がなされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断さ

れる。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、教育目的を達成するために、講義、演習、実験、実習等の授業形態をバランスよく組み合わせしており、それぞれの教育内容に応じた学習指導法の工夫もなされ、「学習相談」の項目をも設けたシラバスは、学生の活用に便利であるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、全学教育科目である「コアセミナー」を過半数の教員が担当し、1年前期生の自主的学習を促す工夫がなされており、さらに、全教員のオフィスアワーの設定や進級に応じた履修ガイダンスを設けるなど、全学部的取組がなされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、卒業生の修業年数別人数、学位授与状況からは、学生が4年間で順調に学力や能力を身に付けて卒業していることが確認できる。また、教員免許や社会調査士といった資格取得がなされるなど、実社会につながる教育の成果が上がっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生の授業評価アンケート結果において、3分の1の学生が3以下の評価である点については、今後の一層の工夫が求められるが、過半数の学生では、シラバスの書き方、教員の努力、工夫、配慮に対する満足度が高

いことが認められるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、当該学部の卒業生は、その約2割が大学院進学ないしは研究生として大学に残る。また、就職者の割合は約61%であり、就職先は、製造業、金融・保険業、情報通信業、サービス業、教育、学習支援業、公務の順が多い。学部卒業後の進学・就職状況が良好であり、多様な分野に就職していることは多様な人材を育成するという教育目的を達成していることであり、教育の成果が認められるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業生アンケートにおいて、専門科目、専門以外の科目ともに、役に立っているという評価は教育の成果といえる。また、卒業生に対する職場の評価が、ねばり強くものごとに取り組むという点や、周りの人と協調してものごとに取り組む態度という点で高い評価を得ていることは、学習への取組を向上させる教育の成果であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は5件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

人文科学府

I	教育水準	教育 2-2
II	質の向上度	教育 2-4

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、人文基礎、歴史空間論、言語・文学の3専攻から編成されており、21世紀COEプログラムを契機に大学院教育の内容及び方法の改善を進め、平成19年度からは歴史空間論専攻に「歴史学拠点コース」を設置したなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、学務委員会、カリキュラム委員会、自己点検・評価委員会、ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会、学生支援委員会、大学院問題検討委員会等が連携して課題に取り組み、それを全体として学府教授会で改善に向けて実施するなど、教育内容、教育方法の改善に向けての取組体制が整えられ、その活動も有機的になされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、人文科学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、大学院修士課程において「現代文化論科目」を必修科目として開講し、学生が現代社会の多様化を見越しながらそれに対応できる柔軟な思考力と専門分野に関して粘り強く研究を進めていく学力を修得できるように配慮されている。また、大学院修士課程・大学院博士後期課程の課程編成と授業科目の設定が適切になされ、さらに、副指導教員を配置した研究指導体制が構築されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学問を社会の中で実践的に活かせるような学生の受入れにも力を入れ、学部新卒者だけでなく、社会人、留学生へも門戸を開くとともに、科目等履修生等の受入れ方法を多様化しているなどの相応な取組を行っている

ことから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、人文科学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、学府全体の共通科目である現代文化論科目、歴史学拠点コース関連科目、そして、講義形式の特論、演習形式の研究といった専修ごとの授業科目を402コマも開講するなど、少人数の指導体制が整備されている。また、ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）の採用が大学院修士・大学院博士後期合わせた大学院生数の3分の1に上る点は学生の意欲を向上させるものであるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学生の主体的な学習を促し、研究意欲を高めるために学府長賞制度を導入していることは、研究の成果を評価する制度として有効である。また、日常的な学習を支える取組がなされ、そのための環境が確保されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、人文科学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、単位修得状況が極めて高い水準で推移しており、また、大学院修士課程学生の多くが修業年限内で修了し、留年率を抑えている。さらに、各種受賞や博士学位授与数を増やすなど、学生の意欲と能力を向上させる方向に改善されているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、FD委員会企画の授業アンケートにおい

て、授業内容・教員の工夫・配慮に対して3分の2以上の学生が満足しており、極めて高い結果を示している。また、自由記述による高い評価の意見の多さからも、教育の成果や効果が上がっていると窺える。当該学府の教育目的に密接に関わる「現代文化論」についても、今後見直しを続け改善策を講じようとしているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、人文科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、人文科学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院博士後期課程の修了生には待機者が多い一方、大学院修士課程修了生が、幅広い教養と人間の文化・社会に関わる総合的・多面的な知識と洞察力を求められる職種に就職しており、教育目的を十分に達成しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、当該学府の教育内容・授業に対する修了生の評価が極めて高いことから、当該学府の教育の効果が十分に上がっていると判断される。就職先からの評価について、大学院修了生のみを集計がみられないが、全体として意欲・能力・知識等、プラス評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人文科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、人文科学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は5件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断さ

れた。

比較社会文化学府

I	教育水準	教育 3-2
II	質の向上度	教育 3-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、2専攻を設置し、それぞれの教育目的に合致した教員を配置している。学生募集の工夫、複数入試の実施、さらに将来計画委員会の下で、専攻の改編も検討されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、留学生への支援制度の改善、学会報告支援等がなされており、教育内容・方法の改善については、授業状態調査、学生アンケート調査を実施したなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、比較社会文化学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、比較社会文化学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、学際的・総合的視野を拓けるような科目を配置し、指導教員団による演習等を組み込んだ教育課程が編成されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、最先端の研究成果をふまえた授業の開講や、研究プロジェクトへの学生の参加を促すなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、比較社会文化学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、比較社会文化学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準を下回る

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、指導教員団の規定を内規で定め、学際的な集団指導体制を目指している点は評価できるが、学生のアンケートでは修士論文・博士論文の指導や授業運営の連携調整、進路指導などで、3割前後がうまくいっていないと答えており、「有意義だった授業の取り組み」で、「自分の研究に結びつく演習・実験」を挙げた者がほぼ5割、「論文執筆の訓練」を挙げたものが5割に達していないことなど、論文指導とコースワークがなお十分に機能しているとはいえない。提出された現況調査表の内容では、比較社会文化学府が想定している関係者の期待される水準にあるとは言えないことから、期待される水準を下回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、授業に要する準備が学生から適正と判断されており、個別の履修指導も行われ、施設面での支援もなされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、比較社会文化学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、比較社会文化学府が想定している関係者の「期待される水準を下回る」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、学位授与状況は、修士44名、博士22名であり、学位審査の適正化に向け取り組んでいる。また、学生の受賞や研究助成を多数獲得しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、当該学府の教育目的が教育内容や制度に反映されていると評価している学生が、項目ごとに約50～70%おり、学業の成果が評価されているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、比較社会文化学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、比較社会文化学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、修士課程修了生のうち、進学者と就職者を合わせて9割が進路を決定しており、博士課程修了又は退学者の就職希望者の9割以上が就職しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、意見聴取の方法や新聞記事などが示されており、アンケートに関しては、回収率が悪いものの意見を聴取する努力がなされているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、比較社会文化学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、比較社会文化学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

教育学部

I	教育水準	教育 4-2
II	質の向上度	教育 4-4

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、教育目的に即した教育学系と教育心理学系の二つの学系を設置し、大学設置基準を十分に上回る教員数を確保し、学生の在籍状況も適正であるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、授業評価に基づく授業改善、学生支援ニーズ調査に基づく学生への対応、教員と学生との懇談会を通じた学生の現状・要望・教育ニーズの把握と対応といった内容の教育改善活動の定着が認められる。また、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動が充実しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、全学教育科目と専攻教育科目とが配置され、専攻教育科目においては教育学と教育心理学との融合が図られるとともに、幅広い知識の習得と体験的学習が進められた上で、学年の進行に従って学生の専門性が深化していくように構成されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、参加と実践を特質とする学習を志向する学生のニーズに対応して、参加体験型授業の充実、実践的知識・技能の獲得を意図した科目の配置、海外短期研修派遣制度を含む外国語教育の充実が進められているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、多様なタイプの授業科目を配置し、体験的実践的科目の導入が推進されるとともに、その体系的把握にも工夫がなされ、また卒業論文作成に向けた研究指導も行われているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学生の主体的な学習を促すための教育指導体制に工夫がなされているとともに、施設・設備にも配慮がなされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、単位修得状況、留年率、休学率、卒業率の状況から見て、教育の成果・効果が認められ、教員免許状取得者も若干増加傾向にあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、授業評価アンケート、学生支援ニーズ調査結果から見て、授業へのおおむね高い満足度が確認できるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、卒業生の 40%以上が大学院に進学し、教育官公庁・企業への就職者も一定の推移を見せているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、平成 19 年度に実施された調査研究上での卒業生調査や全学卒業生調査教育学部門部分抜粋からは、学部の専門教育に対するおおむね高い評価が認められるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は 3 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

人間環境学府

I	教育水準	教育 5-2
II	質の向上度	教育 5-4

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該学府は5つの専攻と専門職学位課程より構成され、459名の学生が在籍している。うち、女学生は過半数を占めている。また、本務教員数は69名であり、教育機関としての基本的編成は十分である。しかし、博士号を取得している教員数は51名であり、学位取得割合は有力大学でありながら全国平均（74%）レベルであるが、相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、学府長の基本方針にしたがって、教授会や各種委員会で教育内容や方法改善に向けて取り組む体制が組織されている。また、学府FD委員会を中心に、講義の在り方や学生授業評価等をテーマにセミナーが実施され、教員の意識の向上が図られている。しかし、学府教務委員会等が改善時事項として挙げている「人間環境学」については、選択必修科目であるとはいえ、登録受講者数が減少傾向にあることは、改善しているとはいえないが、毎年学府を横断するテーマを設定し、異なる分野の学生も履修できることなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人間環境学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、人間環境学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、学際性と専門性を同時に身に付けることを目指した大学院修士課程では修了要件単位数の2～8倍に相当する科目数を提供している。また修士論文としての特別研究が8単位必修化されている。これらの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、社会からの要請に対応するため、社会人教育として昼夜間開講と土日の試験を実施し、また標準修業年限を超えた履修計画を認

めている。さらには英語開講科目を設けるなど、留学生にも配慮しているうえ、多数の科目等履修生を受け入れているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、人間環境学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、人間環境学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、他大学でも行われているようにシラバスを充実させ、ネット上で閲覧できる体制となっている。また各コースには教務委員を配置し、学生の就学に対する相談を密に行っている上、ティーチング・アシスタント（TA）制度を有効に機能させた学習指導の工夫を行っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、半分近い科目でレポートを課し、学生の主体的な学習を促す取組を行っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人間環境学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、人間環境学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、学生は順当に単位を修得し、多くの者が標準修了年限で学位を授与されている。また受賞に関しては学外における研究発表により多くの受賞実績を有しており、身に付けた学力・資質ともふさわしいなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、アンケートの配付率が 60%と低く、また回収率が明記されていないが、学生の授業アンケート結果からは授業内容に満足しているとの評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断さ

れる。

以上の点について、人間環境学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、人間環境学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院修士課程修了後、7割の学生が就職する一方、3割が大学院博士課程へ進学しており、バランスの取れた進路と状況となっている。また大学院博士課程修了後に大学等の教育・研究機関へ就職する学生の比率も多く、当該学府設立の目的に適う状況であるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、修了生からのアンケート調査において「身に付けた教育が業務遂行にとっても役立った」との結果を得ており、またその直属上司からのアンケート調査結果においても修了生の身に付けている能力を高く評価している。しかし、直属上司へのアンケートでは回答者が少なく、また修了生に対しても回収率が低く、職種も技術系（建設業）及び教育関係に集中すると予測されるので、幅広い学際性を身に付けたとの根拠にはならないが相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、人間環境学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、人間環境学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

実践臨床心理学専攻

I	教育水準	教育 6-2
II	質の向上度	教育 6-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、高度の実務専門的教育を目的とするため、専任教員として実務経験者による整備体制及び専攻の目標に合わせた教育体制が整備されているほか、教員一人当たりの学生数も3.8名であり、入学者数の状況も良好であるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、入学時から修了時の間に学生へのディベロップメント調査を実施しながら、ニーズ等を把握して対応・改善するとともに、ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会・ワーキンググループを開催して検討することにより教育改善に役立てているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、実践臨床心理学専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、実践臨床心理学専攻が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、修了生に授与する専門職学位「臨床心理修士（専門職）」にふさわしい事例研究論文の作成を課した科目構成となっており、必要単位数も44単位以上を要件とし、当該大学内の専門職大学院との相互履修制度や臨床現場への実践的な取組が見られるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、今後は心理臨床の現場からブラッシュアップを求めて入学者が増加する可能性への配慮がなされる一方、学生が在学中に実践体験・地域での援助活動を可能とする「長期履修制度」を取り入れており、専門職大学院コンソーシアムでは、地域・市民向けの講座等も開催しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、実践臨床心理学専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、実践臨床心理学専攻が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、当該専攻の教育目的に沿った特徴ある演習・実習科目の設置及び他大学院での研究指導や授業科目履修の単位認定等、柔軟な授業形態となっており、事例研究論文の作成指導に当たって主指導教員と副指導教員の2名体制としているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学生の自主的な学習を促すためにレポート作成を課し、教員によるオフィスアワーや電子メール等による質問・相談による対応をとっている。さらに、臨床心理学に関する学内研究会（教員主催が24、大学院生主体が13）を開催するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、実践臨床心理学専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、実践臨床心理学専攻が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、平成19年度の留年率が3%、休学率が0%と少なく、単位修得及び学位授与状況も良好で、大学院生が特に優れた修士論文として人間環境学府長賞の優秀賞及び奨励賞を受賞し、第1期生（平成18年度修了生）の臨床心理士受験結果では96.6%と全国平均の68.9%を上回る合格率を示しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生対象のディベロップメント調査結果では、カリキュラムや実習についての満足度が高く、心理検査法や心理療法への理解度・

実践調査結果では入学時と比較して修了時に高くなっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、実践臨床心理学専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、実践臨床心理学専攻が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、ほとんどが医療機関・地方公務員の心理職・裁判所・福祉施設等の臨床心理専門職に就いており、当該専攻が目的としている心理臨床分野における高度な専門職者の養成がされているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、平成18年度修了の第1期生を対象としたアンケート調査では、「受けた教育は業務遂行に役立っているか」という問いに対して、専門科目、ゼミ、研究で受けた教育が役立っているとする割合が非常に高く、また修了生の直属上司へのアンケート調査結果でも、一般教養、専門知識・技術、調査・研究の経験への評価が高かったなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、実践臨床心理学専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、実践臨床心理学専攻が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

法学部

- I 教育水準 教育 7-2
- II 質の向上度 教育 7-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準を上回る

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、教員数は良好な状況であるとともに、教員一名当たりの学生数も良好な水準にある。教員の配置に当たっては、伝統的な科目、先端的・学際的な科目、実務的な科目それぞれに必要な教員を配置するほか、国際性を考慮して外国人教員も配置している。また、学生定員の充足状況も十分に保たれるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、まずファカルティ・ディベロップメント（FD）について、法学部／法学府独自のFDと全学のFDがある。前者は平成19年度において14回開催され、授業改善や入試方法の改善等について議論された。後者では新任教員の研修の他、認証評価結果を受けての今後の対応について議論された。その他教育改善に向けての組織体制として、学務委員会による改善体制等が十全に整備されているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、法学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、法学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、教育課程の編成は、全学教育から専門教育まで体系的で、教育的必要性を満たすなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学生や社会からの様々な要請に応える試みが多面的になされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、法学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、少人数教育を念頭に置いて、各年次において、セミナー、演習、外国書講読科目等が配置されるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、論文作成の意欲の喚起、個別面接指導などの取り組みがなされるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、法学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、単位修得状況、卒業状況は一定の水準にあり、学生が身につけた学力等はおおむね良好な状況にあると推察されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生アンケートの結果から、学生の評価は一定の水準にあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、法学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、就職先が公務員、法曹、民間企業、研究職等多様な業種にわたっているほか、大学院への進学実績もおおむね良好であるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、客観的資料は必ずしも十分ではないが、就職先企業や説明会来校者に関する状況等から、おおむね良好であると推察されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、法学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

法学府

I	教育水準	教育 8-2
II	質の向上度	教育 8-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、教員数は適切な状況にあるほか、教員配置もバランスが取れている。入学定員充足率についても特に問題のない状況であるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、活発なファカルティ・ディベロップメント（FD）といった教育改善に向けて取り組む体制を確立するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、法学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準を上回る

[判断理由]

「教育課程の編成」については、大学院博士後期課程においては、博士論文を完成させるための有機的な編成になっており、また、大学院博士前期課程においては、コース別に的確な編成をするなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、英語コース（LL.M.コース他）などの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、法学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、法学府が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、授業科目を体系的に展開するとともに、学生の指導も充実するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、主体的学習を促す、人的努力（例えばガイダンス）や物的設備を整えるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、法学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、単位修得状況、修了状況が一定の水準にあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生による評価及びその結果を取り入れるシステムが必ずしも十分とはいえないが、等価なことがインフォーマルに行われており、おおむね良好であると推察されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、法学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、多くの学生が、卒業後は関連職務に従事しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、就職先の関係者等外部からの情報を組織的に収集することがなされていないが、関係者である卒業生からの評価が一定の水準に達しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、法学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

法務学府

I	教育水準	教育 9-2
II	質の向上度	教育 9-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、教員数、教員の配置状況、学生定員の充足状況ともに一定の水準にあるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育内容、方法の改善に向けて、授業評価アンケート、教員の自己評価等の実施と、それに基づく改善の活動がなされるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法務学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、法務学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、法律基本科目群、法律実務基礎科目群、基礎法学・隣接科目群、展開・先端科目群により構成され、特に法律基本科目群と展開・先端科目群の一部について、基礎－応用－総合という3段階型教育プロセスを確立しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学生や社会、特に九州という地域的な観点に対応した相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法務学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、法務学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、少人数教育、多様な授業形態の実践等の相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、マイデスクポータルの開発、チューターの指導がある等の優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、法務学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、法務学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、厳格な判定のもとでの単位修得状況、修了状況は一定の水準にあり、学生へのアンケート結果からも、学生が身につけた学力等はおおむね良好であると推察されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生アンケートの結果は各項目について肯定的な評価が過半数を占めるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法務学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、法務学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、司法試験で一定の実績をあげるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、まだ修了生を輩出してから日が浅いので関係者からの具体的な評価は示されていないが、司法試験における合格実績、とりわけ未修者の実績が良好であり、関係者からの期待に込んでいると推察されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、法務学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、法務学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

経済学部

I	教育水準	教育 10-2
II	質の向上度	教育 10-4

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、平成 19 年に 50 名の専任教員が、経済・経営及び経済工学の 2 学科の学生 1,131 名を指導しており、学生の定員充足率は平成 16 年度以降、毎年 110%前後であるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、FD 委員会を中心として、学生による授業アンケートの実施に積極的に取り組み、それを踏まえた教員の研修会を年間 2 回程度実施するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、全学教育科目と専攻教育科目が楔形に配置される中で、基礎から応用まで体系的に学べる新しい専門教育科目カリキュラムが平成 18 年度に整備された。このカリキュラムでは、国際標準の経済学・経営学の基礎教育の体系的・効果的な提供と、それによる高年次専攻教育科目の質の維持・発展という目的を有する科目群を「導入基本科目」「基本科目」として配置し、科目毎に固定された教員チームが共通シラバスに基づいて授業を行う体制を整備するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学部・学府一貫教育プログラム、インターンシップの単位化、演習の必修化など学生や社会からの要請に応える措置が講じられてきた。また、3 年次編入学試験において数学的・工学的思考や手法を用いた経済学へのアプローチを得意とする優秀な学生の編入学を促すため、高等専門学校の卒業生を対象として平成 20 年度編入学試験から推薦制を導入し、2 名の優秀な学生を合格させている。さ

らに、学生から高い評価を受けている1年次前期配当のコアセミナーを新設するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、大教室での講義のほか演習をはじめとする少人数教育に力が注がれており、インターンシップも単位化されている。ティーチング・アシスタント（TA）制度も活用するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、キャップ制に代わるグレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度と、それを補完する全学生に対する修学指導体制の構築、特に低単位修得者と過年度学生へ丁寧な対応をするなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、学生の単位修得率は約6割であり、80%の学生が4年間という就学年限内に卒業しており、学生が身につけた学力等がおおむね良好であると推察されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、受講後の学生によるアンケートの結果からは、学生が授業におおむね満足するなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

成果は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大部分の卒業生が、金融・保険業、製造業などの民間企業に就職しており、公務員や大学院進学者も毎年各々10～20名いるほか、指導教員を通じた進路指導も行われるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、学生の就職先企業に対するアンケートの結果によれば、学生に強い期待が寄せられており、平成18年度には10項目に関する5段階評価調査への回答が7企業・団体から寄せられたが、平均で3.9という評価が得られたなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は5件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

経済学府

I	教育水準	教育 11-2
II	質の向上度	教育 11-4

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、経済工学、経済システム、産業マネジメントの3専攻の指導を、助教以上の専任教員60名が大学院博士前期課程を、45名が同後期課程を対象に担当している。また、学生の定員充足率を向上するために「学部-学府一貫教育プログラム」の導入などの工夫がなされるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、FD委員会を中心として、学生による授業アンケートの実施に積極的に取り組み、それを踏まえた教員の研修会を年間2回程度実施している。特に産業マネジメント専攻では、平成18年からモジュール制の下で業務運営を行い、モジュールの検討結果を教育活動に適切に反映しているほか、当該専攻の設置当初から独自に「外部評価委員会」を設置し、業務運営の適正性について定期的にレビューを受けるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、経済学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、多様な人材の養成をめざすように教育課程が編成されており、特に大学院生の約9割が社会人である産業マネジメント専攻では専門職大学院設置基準に沿った科目編成がとられている。また、FD委員会による学生アンケートを通じて把握した大学院生のニーズを反映させるために、平成18年度より学府新カリキュラムが導入され、専門分野における基礎教育と研究者養成のためのカリキュラムの強化を図るなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、夜間授業、「学部-学府一貫教育プログラム」、研究支援給付制度、長期履修制度、リカレント聴講生制度、MOT実践教育、外国ビジ

ネススクールとの交換留学制度等の優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、経済学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、経済学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、論文指導にかかわる演習も含む、多彩な内容の授業科目が開設されており、シラバスの充実やティーチング・アシスタント（TA）・リサーチ・アシスタント（RA）も活用するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、経済工学専攻・経済システム専攻では、「履修パッケージ」を掲げた『経済学部・学府履修ガイド』を活用して履修ガイダンスを行っているほか、各授業において各種のレポートや特研での報告を課すなどの工夫を実施している。産業マネジメント専攻でも、長期履修制度や e-learning の活用（授業のビデオ録画、およびインターネットカメラによる授業参加）といった工夫を試るなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、経済学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、単位修得率、修了・学位授与状況、留年率等はおおむね良好であり、学生が身に付けた学力等はおおむね良好な状況にあると推察されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成 19 年度における経済工学専攻・経済システム専攻修了予定者へのアンケートでは、「授業の満足度」は 5 段階評価で平均 4 であり、産業マネジメント専攻でも、平成 17 年度から平成 18 年度における授業評価アンケ

一トの結果中、「全体的評価・満足度」を表す項目は85～90%という高い水準にあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、経済学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院修士課程の修了者の大部分は2年間という規定年限内に修了し、民間企業や官庁に就職している。修士課程からの内部進学者も含む博士後期課程修了者は大学などでの教育職に就く者が多いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、大学院修了予定者（10項目）、就職先企業（11項目）、学外非常勤講師（12項目）に対する大学院教育にかかわるアンケート調査（いずれも5段階評価）が実施されたが、企業の評価の総平均は3.7、非常勤講師の全体的学力評価は3.6とおおむね良好であったなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、経済学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は5件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

産業マネジメント専攻

- I 教育水準 教育 12-2
- II 質の向上度 教育 12-4

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、定員充足率が一定の水準にあり、適切な教員配置を行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、改善体制が整備されるとともに、ファカルティ・ディベロップメント（FD）アンケートの集計結果によれば、授業の知的価値、担当教員、講義技術、全体的評価・満足度に関する学生の評価スコア平均は、高い水準を保つなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、産業マネジメント専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、産業マネジメント専攻が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、アジアで活躍できる国際的なビジネス・プロフェッショナルを育成すべく、アジア・ビジネスに関する多様な科目を配置するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、フルタイムの職業を持つ社会人の学生のために長期履修制度、リカレント聴講生制度が設けられており、アジアビジネス教育のために外国人教員の招聘、交換留学生制度、国際的教育交流を実施するなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、産業マネジメント専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、産業マネジメント専攻が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、ビジネススクールにふさわしい教育の方法として、双方向型、グループワーク、演習形式に力を注ぐなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学習支援のために、指導教員による個別指導、QBS ラウンドテーブルによる問題意識の共有を図るなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、産業マネジメント専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、産業マネジメント専攻が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、学位授与状況が高水準にあることから、学生が身につけた学力等はおおむね良好な状況にあると推察されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生の勉学意欲は旺盛で、当事者意識が高く、また学生による授業評価は相当高いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、産業マネジメント専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、産業マネジメント専攻が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、社会人学生の大半は勤務先企業で引き続き勤続しており、大学院博士後期課程への進学者も見られるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、多くの修了生は、勤務先企業において昇進、国際ビジネスへの配属がなされ、起業家となる人も少なからずおり、また、博士後期課程進学者等も見られるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、産業マネジメント専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、産業マネジメント専攻が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は8件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

理学部

I	教育水準	教育 13-2
II	質の向上度	教育 13-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、物理、化学、地球惑星科学、数学、生物の5学科から構成される当該学部は、理学部としての期待される基本的組織を備えている。特に、数学科は他学科の1.8～2.2倍の教授数（29名）を有し、学生数は平均数（228名）である。教員一名当たりの学生数は5.5名という恵まれた状況にあるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育方法、教育内容の改善に向けてかなりの努力がされている。ファカルティ・ディベロップメント（FD）は学科毎に年1回ではあるが、実施されており、数学科を除いて教員の出席率は比較的高い。全学FDも年1回開催されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、文系、理系に「コア科目」を設定し、高等学校での限られた履修を補填するためそれぞれに最低修得単位を課している。実験等を含む専攻教育の構成は、それぞれの科目の特性に応じてきめ細かく作られているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学生が積極的に質問するような条件を作っており、また、外国語のニーズに応じた2学科の記載があり、数学科では、英語テキストを使用したセミナー、生物学科では外国人教員による英語の講義（資料3-1-B「授業形態上の特色」）を開催しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容

は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、理学部としては標準的な教育方法であるが、講義科目と実験実習科目、フィールドワーク等を各学科の特性やそれぞれの授業形態の特色により組み合わせているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、主体的な学習を促す取組に特別な工夫は認められず、主体的な学習方法として、多くの医学部で取り入れられている「問題解決型」の教育方法を考慮する必要があるが、教育水準は適正であるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、単位修得率（約 80%）、学位取得率（約 85%）、教育職員免許、公務員合格、学生の受賞、論文発表等から相応に資質や能力を身に付けていると判断できるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、よりきめの細かいアンケートを実施すること、及び学生からの回答率（35～45%）を上げることが必要であるが、学生の理解力は良好であり、教育の内容も適正であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院進学者が 79%を占め、そのほとんどが九州大学大学院に進学している。また、就職者のうち 68%が専門的・技術的職業に就いているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、就職先へのアンケート結果によると、卒業生からの評価は非常に高い。教養科目から専門科目、プレゼンテーション能力、国際コミュニケーション等のバランスが良く高いなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、理学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、理学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

理学府

I	教育水準	教育 14-2
II	質の向上度	教育 14-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準を上回る

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、「魅力ある大学院教育」イニシアティブ及び大学院教育改革支援プログラムが採択されたことにより、大学院基本組織の改革を積極的に進めている。平成 20 年度からは、概算要求が認められ、それまでの改革を基盤にさらに大きく飛躍しようとしているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、「魅力ある大学院教育」イニシアティブ、文部科学省大学院教育改革支援プログラム及びグローバル COE プログラム等の採択により、教育内容、教育方法の改善に向けて積極的に取り組めるようになっている。特に、自立性と国際化、社会への対応を教育の重要な要素として取り入れているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、理学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、理学府が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準を上回る

[判断理由]

「教育課程の編成」については、平成 17 年度から「フロントリサーチャープログラム」、を導入し、平成 19 年度からは「フロントリサーチャー育成プログラム」と「アドバンストサイエンティスト」からなる専攻横断的な科目を配置し、大学院修士課程 2 年、大学院博士後期課程 3 年の教育を実施している。また、「フロントリサーチャー育成プログラム」では、これまでの教育に加え、高い学際性、優れた研究マネジメント能力等を身に付けるため 5 年一貫教育コースも設置されているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、国際コミュニケーション能力のための英語教育を充実させるため英語表現のネイティブスピーカーの講師により演習を行っているほか、学生が自ら研究を管理する「リサーチマネジメント」等により研究企画から成

果発信までの研究マネジメント能力の涵養がなされているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、理学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、理学府が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準を上回る

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、「フロントリサーチャープログラム」では少なくとも他専攻の教員1名を含む数人の教員が参加した助言の場が設定されている。また、大学院生自身の企画・立案による最先端分野で高い研究実績を有する学内外の著名研究者を招くセミナーが実施されているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学生主導のセミナーに加えて、大学院生自らがシンポジウムを企画しているほか、大学院生の裁量で利用できる裁量枠を設けているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、理学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、理学府が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準を上回る

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、学会でのポスター、学術論文、学会講演等で31名の学生が受賞しており、学位取得者数、教員免許の取得状況、国家試験の採用状況、日本学術振興会特別研究員の採択状況などから、学生が優れた資質や能力を身に付けているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、修士学生に対するアンケート調査では、多くの学生が「専門分野に関する知識」等の能力が向上していると考えており、また、能力育成に役立った教育として、特に、研究室での日常の教員や大学院生との交流を挙げているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、理学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、理学府が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院修士課程学生の進学率は約 19.7% であり、就職率は 73.5% である。また、大学院博士後期課程学生の 93.1% は科学技術者を指向している。高度専門職の育成という理学府の目的に向かって教育が行われているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業生のアンケート調査から、卒業生が重要だと考える能力は平均約 0.78 の向上がみられる。また、就職先へのアンケート調査から平均約 0.96 の向上がみられ、就職先からも高い評価を受けているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、理学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、理学府が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は 3 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

数理学府

I	教育水準	教育 15-2
II	質の向上度	教育 15-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準を上回る

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、純粋数学から応用数学までの幅広い研究分野の教員からなる数理学専攻の単一専攻からなり、広範な数学の研究成果の基礎の上に多様で先端的内容の教育を実践している。また、定員適正化の取組について、平成 18 年度に機能数理学コースを新設し、さらに平成 20 年度に大学院博士課程の入学定員を 26 名に改正する予定であるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、文部科学省大学院教育改革支援プログラム「産業技術が求める数学博士と新修士養成」を実施し、教育内容の充実を図るとともに、大学院博士課程に機能数理学コースを新設し、企業における長期インターンシップを必修科目として課すなど、実社会で活躍する数理科学研究者の育成のための第一歩を踏み出しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、数理学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、数理学府が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、大学院博士課程において平成 18 年度より機能数理学コースが新設され、従来の数理学コースと合わせて大学等における研究者の養成だけでなく、実社会で活躍する数理科学研究者の養成のための第 1 歩を踏み出している。また、大学院修士課程において他大学、他学部、他専攻出身者等の多様な興味と適性を持った学生を受け入れ、数理科学の基礎から応用までの広範な分野での教育を目指しており、それに見合う授業科目の編成を行っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、大学院博士課程において機能数理学コースを新設し、企業インターンシップの実施等新たな試みを始めているなどの相応な取組を行

っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、数理学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、数理学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、授業形態は大学院修士課程においては少人数セミナーによる研究指導と講義主体の「基礎科目」「先端科目」「展望科目」からなる一連の講義からなっており、多様な学力と興味を持った学生の学力を高める体制となっている。また、大学院博士課程においては、企業の研究者や技術者による特別講義や長期インターンシップの実施等を行なっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、数理学府の教育の根幹は指導教員と少人数の学生とのセミナーでの研究指導であるため指導教員の個別学生へのきめ細やかなアドバイスと各学生の周到な準備が必要であり、また学生が学力を高めるためには自分自身で立てた学習プログラムによるハードな自主学習が不可欠である。その成果は大学院修士課程であれば修士論文の内容の高さで判断される。これを保証するため、指導教員によるきめ細かい指導が行われている。さらに、自習のための大学院生室の確保や情報設備に関しては計算機室の確保に努力しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、数理学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、数理学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、履修登録者延べ 519 名、単位修得者数 495 名であり、95%の高い修得率であり、留年者数 3 名、休学者数 1 名で 9 割以上の学生が 2 年で大学院修士課程を修了している。大学院修士課程では、1 学年 34 名の定員数

に対し修了生は年平均 10 名程度であり、大学院博士課程は平成 19 年度は 8 名であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成 19 年度の学生アンケート（回収率 38.6%）によると、能力、知識の向上度及び満足度に高い評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、数理学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、数理学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院修士課程修了生 48 名中、大学院博士課程進学者 10 名、就職者 38 名であり、28 名が技術者、6 名が高等学校の教員への就職である。また、大学院博士課程修了生 9 名であり、科学研究者 7 名、技術者 2 名であるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、平成 19 年度修了生アンケート（回収率 18%）によると、能力、知識の向上度、満足度共に 5 割以上が高位の評価（4 及び 5）である。また、就職アンケート（回収率 29%）においても本人の現在の能力等について非常に高い評価を受けているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、数理学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、数理学府が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は 3 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

システム生命科学府

I	教育水準	教育 16-2
II	質の向上度	教育 16-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、システム生命科学専攻のみの編成であり、教育研究上の責任部局を学府の教授会とし、研究指導教員と研究指導補助教員を配置して教育目的の達成を目指している。また、定員充足の適正化にも取り組んでいるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育上の課題は、各講座主任による主任会において検討し、さらに詳細な検討は教育検討ワーキンググループ及び将来構想ワーキンググループで行っている。特にバイオインフォマティクス教育の強化や授業の情報化、さらに教育組織の改組に向けた取組を行っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、システム生命科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、システム生命科学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、生物科学と情報科学、工学等の諸科学の融合領域としての「システム生命科学」にふさわしい教育課程を編成しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、生物科学と情報科学・工学の二つの領域に精通した人材の養成と、他領域を学ぶ困難を軽減したい学生からの要請に応じて、ほとんどすべての科目を基礎と専門の二本立てにするとともに、教育アンケート調査に基づき授業科目編成等の改善をしているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、システム生命科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、システム生命科学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、生命倫理学を必修基礎科目として全学生に履修させている。様々な分野を学んできた学生が円滑に学際教育を受けられるよう、情報科学系、工学系、生命医科学系、分子生命科学系の4講座からのカリキュラム提供に加え、学際開拓創成セミナーでは異分野間の共通認識や問題点の認識ができる教育を実施しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、大学院生の自主的な学習を促すために、各授業における課題追求のためのレポートの提出や他の分野の研究者、大学院生との共同研究の推進等、多様な取組を行っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、システム生命科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、システム生命科学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、単位修得率は各年度とも98%以上であり、留年率、休学率は低水準であるほか、多くの学生が、4講座が準備する基礎科目群、専門科目群における複数の講座の講義科目を履修しており、ダブルメジャーの資質・能力を身に付けているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成19年度に実施した「システム生命科学府自己点検・評価のための学生アンケート」によれば、80%の学生が知識が深くなった、学力が上がったと答えており、90%の学生が講義を理解できると答えているなどの相

応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、システム生命科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、システム生命科学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、進路状況は、職業別に見ると科学研究者として従事しているものが多数を占め、生物科学と情報あるいは工学という複数の素養を持つ人材が広く受け入れられているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、平成 19 年 12 月に実施した修了生へのアンケート調査によれば、必須基礎科目である「生命倫理学」が評価されており、さらに、回収率は低いですが就職先のアンケート調査によれば、専門分野のみならず関連する分野の知識を身に付けている、自分の考えを導き出す能力があるなど高い評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、システム生命科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、システム生命科学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は 3 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

医学部

- I 教育水準 教育 17-2
- II 質の向上度 教育 17-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、同学部は医学科、生命科学科及び保健学科の3学科から編成され、3学科には合計13の学科目又は専攻が設置されている。医学研究院所属の教員が各学科の教育を兼担する体制を整備するとともに、学科編成についても生命科学科を平成19年度に新設するなど、社会的要請に応じて見直しが行われているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、医学科・生命科学科教務委員会、保健学科教務委員会を中心に教育内容・方法の改善に向けた取組がみられるほか、各教務委員会、医療系統合教育研究センター及び情報基盤研究開発センターとの協力体制の下で、教育内容・方法の改善を推進しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、医学科では6年、保健学科及び生命科学科では4年の教育課程を編成し、医学の知識を系統立てて学習できるように編成されていること、さらに総合選択履修方式の採用や、新たに医療系統合教育科目を設定しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、医学科では学生の要望や社会の要請に対応して医療系統合教育科目及びMD-PhDコースを設置、生命科学科では企業及び高校生対象のアンケート結果を参考に4コースを設置、保健学科では医療福祉体験実習やe-learning導入による看護技術能力強化を図っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容

は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、医学科の特性に沿って、専門職としての技能及び態度を育成する組み合わせを工夫し、学生の研究能力向上を企図したティーチングアシスタント（TA）制度の活用や研究志向の高い学生への MD-PhD コースを設定しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、履修ガイダンスや実習オリエンテーションを実施し、平成 17 年度より e-learning 環境を、平成 19 年度からはグレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度を導入し、履修科目を自主的に学習させる体制を整えているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、単位修得状況が、全学教育から専攻教育に移行する 2 年終了時において低い傾向がみられるが、その他の学年及び全体としては 95%程度で推移しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成 19 年度の学生からみた授業評価アンケートの結果から、学業の成果に関しておおむね満足度の高い回答が得られているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業(修了)後の進路の状況」については、平成18年度医学部学士の資格取得率は90.2%であり、同年の卒業生102名のうち、臨床研修医91名、進学者0名で、左記以外の者11名とあり、医師国家試験合格率の低下が示唆されるが(資料A1-平成18 データ分析集:19.2.1.1 資格取得状況、及び20.1.1 進学・就職状況)、医学科卒業生の多くは、臨床研修医として病院に就職、一部が大学院に進学しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、医学科では卒後臨床研修マッチング率が92~97%台と高く、また、卒業生に他大学医学部教授や病院長を多く輩出していることから期待される水準にあると判断される。保健学科は、第一期生が卒業したところであるが、就職率、大学院進学率は高いなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、医学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、医学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は6件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質(水準)を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

医学系学府

I	教育水準	教育 18-2
II	質の向上度	教育 18-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該学府は9つの専攻から編成され、各専攻の下に講座又は分野が設置されている。研究部（大学院研究院）に所属して教育（大学院学府）を担当する専任教員数は大学設置基準を満たし（資料1-1-F 専任教員の配置状況（平成19年5月1日現在））、教育研究上の責任体制も明確にされていること、並びに学生の在籍状況が大学院修士課程、博士課程ともに90%以上で推移しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、医療系統合教育研究センターの設立や「魅力ある大学院教育」イニシアティブ（平成18年度採択）等により、平成19年度からのカリキュラム改定、並びに生命科学科新設と連動した取組が多くなされているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、医学系学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、医学系学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、大学院修士課程、博士課程ともに講義と実習がバランスよく配置され、社会的ニーズの高い基礎研究者と臨床医学研究者の育成が図られているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、医療現場や研究分野で求められる実践力を習得できるよう、教育プログラム・コースを設定しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学系学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、医学系学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、講義、少人数セミナー、実習及びグループ学習や e-learning 等、学習指導法の工夫がなされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、自習室や医学に関する情報機器室が整備され、学生に提供されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学系学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、医学系学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、学年ごとの単位修得状況、大学院修士課程・博士課程修了者数、学位授与状況等がおおむね良好であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、授業評価アンケートが実施され、例えば学生から改善点や不満点を取り上げるような工夫(資料4-2-B 授業評価アンケートの結果(平成18年度抜粋))がみられ、授業改善に活用しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学系学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、医学系学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、医学博士課程修了者の多くは医師として地域の基幹病院に、一部は科学研究者、教員として就職している。卒業生は保健医療を地域で支える一方で、研究スタッフや臨床医学研究者として後進の指導に当たっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、九大病院関連病院長会議における情報交換等において良好な評価を受けているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学系学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、医学系学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は7件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

医療経営・管理学専攻

I	教育水準	教育 19-2
II	質の向上度	教育 19-6

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準を大きく上回る

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、医療分野が求める新たな高度専門職業人の養成に特化した教育を行うという基本方針の下、医療政策学、医療経営学、医療管理学、医療コミュニケーション学の4つのコースからなり、医療・保健に関する幅広い問題について医学及び社会・人文諸科学的な観点から総合的な教育活動を行っている。定員充足の適正化に向け遠隔地受験、長期履修制度、オープンキャンパス等の取組を実施し、入学定員を満たしている。教授を中心とした専任教員を十分に確保し、専門職業人としての高度な技能、技術を修得させるための教員の配置となっており、教育研究組織は適切に編成されているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、毎週の専攻教員会議、毎月の専攻運営会議で教育上の課題について幅広く検討し、また、学生による授業評価及び学生との意見交換会の取組を行っており、これらの具体的な成果として、シラバスの改善、教育方針の年報への記載、理論に基づいた実践例を多く示す授業、学生の創意工夫に基づく独創性ある成果物作成に向けた演習の充実強化等があり、教育内容及び方法等の改善・向上に結びついている。ファカルティ・ディベロップメント（FD）は、専任教員が中心となって、今日的な医療・経営の問題点をテーマに外部講師を招聘して講演会という形式で実施されており、FDによって、各科目においてケース教材を使用した授業が行われる等、教育に用いられる実践例が増加したという改善が見られた。以上の取組や活動、成果の状況は良好であるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

特に、医療分野が求める新たな高度専門職業人の養成に特化した教育を行うという基本方針の下、医療政策学、医療経営学、医療管理学、医療コミュニケーション学の4つのコースで、医療・保健に関する幅広い問題について医学及び社会・人文諸科学的な観点から総合的な教育活動を行い、遠隔地受験、長期履修制度等の取組も実施して入学定員も満たしている。また、専門職業人としての高度な技能、技術を修得させるための専任教員も配置されて、専攻教員会議及び専攻運営会議で教育上の課題について幅広く検討している。学生による授業評価だけでなく、学生との意見交換会の取組を行っており、シラバスの改善、教育方針の年報への記載、理論に基づいた実践例を多く示す授業、学生の創意工夫に基づく独創性ある成果物作成に向けた演習の充実強化、今日的な医療・経営の問題点をテーマに外部講師を招聘して講演会という形式のFDによる、各科目における実践例・ケース教材を

使用した授業の増加等の優れた成果を上げており、医療経営・管理学専攻の目的に照らして、特筆すべき状況にあるという点で「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

以上の点について、医療経営・管理学専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、医療経営・管理学専攻が想定している関係者の「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、養成する人材像と学問分野・職業分野の特徴、授与する学位を踏まえて教育課程を編成し、非医系学生及び各コースを履修する上での基礎知識を習得するための医療学基礎科目群、医療分野が求める新たな高度専門職業人の養成に特化した教育を行うための共通基礎科目群、医療政策・医療経営・医療管理・医療コミュニケーションの分野において必修専門科目群等の必修科目における基本的知識の習得を踏まえつつ、選択科目における高度の応用へと学生が自らの関心と問題意識に応じて科目を選択できるよう授業科目を配置している。また、専攻修了の際には、学生各自の医療経営管理学領域の研究テーマに沿った修了成果物の作成と発表を義務付けているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学生の授業評価や卒業生アンケートによって教育内容や方法を改善するとともに、社会人学生に配慮して教育課程に長期履修制度を取り入れたり、特定曜日で集中的な授業と演習を行っている。学生の多岐にわたるそれぞれの進路先で要求される技術に対しては、医療政策学、医療経営学、医療管理学、医療コミュニケーション学を必修の専門知識とし、演習において実践能力を獲得する教育を行っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医療経営・管理学専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、医療経営・管理学専攻が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準を大きく上回る

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、各科目群を体系的に習得させるとともに、フィールドワーク、論文作成のトレーニング、英文原著精読、ケースメソッド方式の授業、現場の第一線で活躍している実務家や専門家の声を取り入れた外部講師の授業等、授業形態上特色のある実践的な教育内容にし、演習を通じて現実の医療問題の解決に迫るような取組を行っている。また、適切なシラバスの活用、演習は夜間に行うなどの社会人学生への配慮、他の教育部、学部の授業科目の履修が出来ること、研究を指導する演習の選択に当たっては学生と教員とのマッチングを行っていること、問題解決型の研究方法をとるなど、多様な工夫がなされた教育研究指導が行われているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、自主的な学習を支援するため、自習室や情報機器室を整備し、履修ガイダンスを行うほか、履修単位の制限を実施するとともに、課題やレポートを課して授業時間外の学習時間を確保し、シラバスでオフィスアワーや学習相談について明示している。個人の心身の健康から修学にかかわる問題や奨学金も含めた経済的問題の相談に乗るための担任制をとり、状況によっては学生に対してカウンセリング的な対応も含めた相談も行っているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

特に、「教育方法」においては、各科目群を体系的に習得させるとともに、現場の第一線で活躍している実務家や専門家の授業、ケースメソッド方式の授業、フィールドワーク、論文作成トレーニング、英文原著精読等、実践的な取組を行う一方、適切なシラバスの活用、夜間演習等の社会人学生への配慮、他の教育部・学部の授業の履修、学生と教員とのマッチングに基づいた研究指導等、多様な工夫がなされた教育研究指導を行っている。また、自習室や情報機器室を整備し、オフィスアワーや学習相談、履修ガイダンスを行い、履修単位の制限する一方で課題やレポートを課して授業時間外の主体的な学習を促すとともに、担任制をとり、個人の心身の健康から奨学金も含めた経済的問題等の修学にかかわる相談やカウンセリング等のきめ細かい対応を行うことによって、現実の医療問題の解決に貢献する医療経営・管理の専門職業人の養成がなされる等の優れた成果を上げており、特筆すべき状況にあるという点で「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

以上の点について、医療経営・管理学専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、医療経営・管理学専攻が想定している関係者の「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、学生の単位修得状況や学位授与状況は良好で、留年者、休学者は少なく、開講以来修了できなかった学生は1名のみであり、その他は全員修了にいたっている。また、修了の際の各自の研究テーマに沿った修了成果物についてもその評価は高い水準にあるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生によるアンケートや学生との意見交換会によって学生の評価を得るとともに、学生による授業評価は定期的を実施しており、平成18年度の結果では、教育形式、講義の内容、学生自身の自己評価のすべての項目においておおむね高い評価となっており、授業は学生の期待に応えたものとなっていると推察される。また、それらの結果は各教員にフィードバック・共有され、授業内容及び方法の改善・向上に結び付けているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医療経営・管理学専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、医療経営・管理学専攻が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、過去4年間の進路は、行政、医療機関、医療関係の団体・シンクタンク、大学教員、大学院進学等であり、当該専攻の医療政策学、医療経営学、医療管理学、医療コミュニケーション学を通じた高度専門職業人の育成という教育目的を実現したものになっている。特に、10名以上の修了生が、国を代表する医療関係の団体等にも就職しているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、平成19年度に行った修了生からの意見聴取では、医療問題を解決するために、目的を明確にし、具体的に対策を組み立て、結果を評価し、改善するシステムを構築できる能力を持った高度専門職業人の養成という教育目的を実感している意見を得ており、また、就職先からの意見聴取では、高度専門職業人としての一定の評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医療経営・管理学専攻の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した

結果、進路・就職の状況は、医療経営・管理学専攻が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は5件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

歯学部

- I 教育水準 教育 20-2
- II 質の向上度 教育 20-4

1 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、教育上の課題を扱うため、学務委員会が毎月開催され、教育組織は適切に編成されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育内容、教育方法の改善に向けて教授会、教育計画検討委員会、学務委員会という体制の下で、教育内容や教育方法の改善に向けた取組が行われている。その結果、新カリキュラムの設定や新科目の立ち上げ等授業内容の改善に結びついているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、歯学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、歯学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、当該学部では、全学教育科目と専攻教育科目が楔形に配置された6年間の一貫教育課程を編成し、専攻教育においては、学年が上がるにつれて基礎系科目中心から臨床系科目中心へと授業科目を配置しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、共用試験の導入、大学院連携科目の設定、3年次編入制度、文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラムの採択等、学生の多様なニーズ、社会からの要請等に対応している。特に、臨床実習前の国家試験ともいえる共用試験における学生の成績は優れているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、歯学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、歯学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準を上回る

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、当該学部の教育目的を達成するために、講義、演習、実習等の授業形態がバランス良く組み合わせられており、それぞれの教育内容に応じて視覚素材を活用したり、ウェブサイト上に教育資材を配置するなどの適切な学習指導法の工夫がなされているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学生の主体的な学習を促すため、自習室や情報機器室の設置、e-learning の積極的活用等の取組が行われている。また、ほぼすべての授業科目を必修化する等の単位の実施化への配慮がなされているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、歯学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、歯学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準を上回る

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、少ない留年率や高い卒業率、また、ほぼ 90%以上を維持している歯科医師国家試験合格率等から、教育の成果や効果は上がっているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、教育の現状や効果に対する学生の意見聴取の結果から、学部教育の成果・効果を認める意見が大半を占めており、教育の成果や効果が上がっているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、歯学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、歯学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、過去4年間における学部卒業後の進路状況において、平成19年度その他17名は臨床研修医にならない理由が不明である。しかし、臨床研修医の約4分の1はその後大学院へ進学していることは、指導的歯科医師の養成という点で教育の成果や効果があがっていることは相応な成果であることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、就職先等の関係者からの意見聴取等から、医療人としての自覚や倫理観に優れているという結果が得られており、将来にわたって自主的学習を続けていく意欲が養成されたという点で教育の成果や効果が期待以上に上がっていることは優れた成果であることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、歯学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、歯学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

歯学府

I	教育水準	教育 21-2
II	質の向上度	教育 21-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、大学院重点化を機に大幅な機構改善を実施し、歯学研究科における歯学基礎系と歯学臨床系の2専攻を歯学府歯学専攻へと一本化し、国際的にも活躍できる人材の養成を目指して成果を上げていることより、取組や活動成果の状況は良好であるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、当該学府並びに全学ファカルティ・ディベロップメント（FD）等種々の取組により大学院充足率が大幅に改善されており、順当な学位取得率が維持されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、歯学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、歯学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、歯学府の教育課程編成で、基礎から臨床にかけての教育課程がスムーズに流れるような工夫をしていることから、順当な学位取得率の維持が可能となっていると推察される。また、社会人特別選抜の大学院生のために昼夜開講制の授業科目も配置しており、授業の履修に問題はみられないなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、当該学府では、臨床研修制度の法制化後の学生からの要請に対応して博士（臨床歯学）という第3の学位を設定しており、さらに社会からの要請に対しては社会人特別選抜を導入している。結果として、多くの入学希望者が応じているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、歯学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容

は、歯学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準を上回る

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、当該学府の教育目的を達成するために講義、演習、実習等の授業形態がバランス良く組み合わせられているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学生の主体的な学習を促すため、自習室や情報機器室の設置等の取組が行われている。また、高い学位取得率が維持されていること等からも、様々な取組の成果が現れているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、歯学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、歯学府が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、単位修得率は極めて高く、留年率や休学率は低く、また、学位取得率も、ほぼ 80%以上と高率を維持しており、教育の成果や効果は上がっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、教育の現状や効果に対する学生の意見聴取の結果から、学府教育の成果・効果に満足する意見が大半を占めているので、教育の成果や効果も大幅に上がっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、歯学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、歯学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、過去3年間における学府修了後の進路状況において、それぞれが自ら専門分野に進み、それぞれの職種において、大学院で身に付けた知識や技術を活かしているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、修了生へのアンケートの集計結果から、教育体制、内容に満足していることがうかがえることにより、当該学府の教育の成果や効果が上がっていると判断できるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、歯学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、歯学府が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

薬学部

- I 教育水準 教育 22-2
- II 質の向上度 教育 22-5

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、創薬科学科及び臨床薬学科の2学科よりなる。定員は、各学年それぞれ50名及び30名である。大学院重点化をしており、教育部（大学院学府）と研究部（大学院研究院）を設置し、研究部を教員が所属する組織としており、教員一名当たりの学生数は5.9名であるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、部局中期目標・年度計画に沿って、教務委員会、FD委員会主導の下で、教育内容の充実、教育方法の改善、教育実施体制の整備、学生支援の向上が進められている。その結果、臨床薬学科高年次教育施設・設備の整備が平成20年3月に完了した。また、平成18年より教務委員会及び入試委員会を統括する学務担当の副研究院長を配置した。また、過去5年の間に教授・准教授のうち約80%を「薬学教育者ワークショップ」に派遣した。さらに、分野配属システムとしてグレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度を導入しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、薬学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、薬学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、学科ごとに教育目的を設定し、全学教育科目と専攻教育科目が楔型に配置され、4年及び6年の一貫教育を実施している。最低修得単位数は創薬科学科及び臨床薬学科でそれぞれ、124単位及び186単位である。専攻教育科目における必須科目と選択科目の割合は28科目／28科目（創薬科学科）、44科目／18科目（臨床薬学科）と定めている。創薬科学科においては専門性の高い創薬研究者養成をめざして、4年次には研究室に配属し、個別の最先端研究に取り組んでいる。臨床薬学科では、チーム医療に参画できる薬剤師の育成を目指して、九州大学医療系統合教育研究センター提供によ

る講義を、医学部・歯学部、(医学部)保健学科学生と共に受講する。また、最終年次において、卒業実習並びに個別指導による卒業研究プログラムを実施して、問題発見・問題解決能力を涵養し、大学院進学を促している。さらに、当該大学の特色として全学教育科目の一部に、学生の個性ある多面的な能力を柔軟に発揮させることを趣旨とする「総合選抜履修方式」が設定されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、両学科において生物未履修者対応科目としての基礎生物学演習、創薬科学科では大学院修士課程と連携した薬学特別実習、薬学少人数ゼミナール、科学論文総合演習等が、また、臨床薬学科では、早期体験学習、病院薬局実務実習、充実した医療系科目等が行われている。特に、早期体験学習は、臨床薬学科では必修科目である。創薬科学科では選択科目であるが、ほぼ全員が履修しており、薬学を学ぶ動機付けと修学意識の向上が図られている。また、平成 16 年度から、「医療系統合教育科目」を開設しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、薬学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、薬学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、教授・准教授は主要授業科目を含め全科目を担当し、講師、助教、非常勤講師は主要授業科目以外の科目を担当している。創薬科学科では、演習科目を通じた実力養成に力点を置くとともに、4年次で各研究室に配属され、分野単位(4名以下)で、きめ細かな指導を受ける。臨床薬学科では、5年次での5か月の病院実務実習及び薬局実務実習を履修するために必要な実務実習プレ講義・実習・演習が4年次後期に開講される。さらに、5、6年次の実務実習以外の期間には、アドバンスト実務実習としての卒業実習及び個別の課題について取り組む卒業研究が実施される。これらの演習・実験・実習科目には、少人数、対話・討論、体験の要素が組み込まれている。また、これらの薬学特別実習、卒業実習及び卒業研究では、対話・討論、体験に加えて、課題設定・解決能力、論文作成能力、発表能力の向上が重視されている。また、学生の教育研究能力の向上を図るため、ティーチング・アシスタント(TA)制度が活用されている(年間 97~165名)などの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、シラバスに学習到達目標を記載するほか、オフィスアワーや電子メールにより、授業内容に関する質問・相談に乗っている。履修指導は各学年の状況に配慮して実施している。また、単位修得状況の不良な若干名の学生を対象として、教務委員長による修学相談を定期的に行っている。さらに、平成 19 年度より、GPA 制度を導入し、履修指導に役立てている。また、自主的な学習を促すため、講義室、学習室、セミナー室、リフレッシュルーム、IT ルームを平日午後 8 時まで開放しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、薬学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、薬学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、過去 4 年間の単位修得率は、平均 92%である。卒業生の 96%が修業年限で卒業し、学位取得率は 100%である。また、最近 4 年間の薬剤師国家試験平均合格率は 81%である。大学院への進学率は 70～85%と高いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成 18 年度に実施した学生による授業評価のアンケートの結果において授業の到達度や満足度については、例えば、「シラバスが適正に作成されたか」の問いに高評価を得るなど、ほぼ良好な回答が得られており、学業の成果・効果が上がっていることが認められた。また、平成 19 年度卒業生を対象としたアンケート調査の結果も専門教育及び学部教育全般について高い評価が回答されており、当該学部の目的を達成する教育指導が行われているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、薬学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、薬学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院への進学者が70（平成18年度）～85%（平成16年度）を占める（なお、本観点とは直接の関係はないが、統計上、平成19年度には学生の男女比に変化が見られる）。産業別就職状況では、89～100%が薬剤師の職能を活かした医療関係や製薬会社、卸売り・小売業への就職である。大学院修士課程進学者及び保健医療従事者を加えると約95%に達し、薬学研究者の育成及び薬剤師育成という当該学部の目的を十分に達成しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業生や就職先の関係者から意見聴取を行っている。具体的には、回収率は低い卒業生アンケート、薬系企業フォーラム、創薬フォーラム（それぞれ年1回開催）及び病院薬局実務実習担当者との打ち合わせ会議等を利用している。卒業生からの大学教育に対する満足度は高く、就職先の関係者の評判も良いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、薬学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、薬学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

薬学府

I	教育水準	教育 23-2
II	質の向上度	教育 23-5

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準を上回る

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、薬学府は医療薬科学専攻と創薬科学専攻の2専攻よりなる。それぞれ独自の見識ある優れた教育目標が設定されている。当該学府の教育研究上の責任部局は医療薬科学専攻では薬学研究院と病院、創薬科学専攻では薬学研究院であり、その運営は学府教授会による。大学院修士課程定員は110名（医療薬科学専攻60名、創薬科学専攻50名）である。博士後期課程定員は78名（医療薬科学専攻42名、創薬科学専攻36名）である。非常勤講師数(大学院修士課程26名)を加えると、教員一名当たり学生数は大学院修士課程で1.99、大学院博士後期課程で1.18である。このように充実した教育の実施体制が確立されているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、学府教授会、教務委員会、入試委員会を中心に、教育内容の充実及び体系的カリキュラムの編成、選抜方法の改善、学生支援の向上、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動の充実、授業評価システムの確立と授業改善への利用等に取り組んでいる。主な改善の取組として、「がん専門薬剤師プログラム」、学生に対する緊急の経済支援や海外派遣への支援策の実施、教務委員会及び入試委員会を統括する学務担当の副研究院長の配置等があるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、薬学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、薬学府が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、学府規則により、大学院修士課程の修了要件及び博士後期課程の修了要件を定めている。博士後期課程における修了要件としての論文審査及び最終試験では、学府教授会で承認された4名の調査員による学位論文の審査及び最終試験の結果を元に、学府教授会で審査と修了認定が厳正に行われている。専門性の高い高度薬

剤師育成をめざした教育プログラムとして、平成 19 年度に採択された「がんプロフェッショナル養成プログラム」に基づき、平成 20 年度より「がん専門薬剤師修士課程」、「がん専門薬剤師博士課程」が開講される。また、平成 18 年度より、創薬研究者育成を目的とする九州薬科学教育研究連合（長崎大学、熊本大学との連携）による合同研修プログラムを実施しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、大学院生、企業、医療機関からのニーズや要請を把握したのち、これらに対応した取組を行なっている。具体的には、大学院修士課程の学生の合同研修プログラムを 3 大学で実施している。また、外国人客員教授による英語での「漢方医薬学特論」を実施している。また、医薬化学総論として、修士 1 年を対象に教員 13 名で実施する研究テーマプレゼンテーションと討論会を実施しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、薬学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、薬学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、当該学府の教育目的を達成するために、講義、演習、実験をそれぞれ 26 科目、実習を 24 科目、その他 5 科目を開講している。授業以外にも積極的に論文投稿や学会発表を勧めており、学府学生による論文発表数は年間 141～152 件、学会発表数は 154～231 件に上る。また、1 名の学生を 2～3 名の教員で指導する複数指導体制を導入し、より広範な指導・助言を得ることが可能となっている。さらに、学生の教育研究能力の向上を図るため、ティーチング・アシスタント(TA、年間採用数 97～165 名) やリサーチ・アシスタント (RA、年間採用数 6～10 名)の制度が活用されているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、教務委員会による履修ガイダンス、指導教員による履修相談及び履修指導を通して、学生の自主的な学習・研究を促している。また、自習室や情報機器室を始め、研究室でのコンピューター端末を整備しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、薬学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、薬学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準を上回る

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、大学院修士課程学位取得状況は平成16年度～平成19年度総平均95%と高い取得率を示している。なお、大学院博士後期課程では、「がん専門薬剤師博士課程」を除き組織的なカリキュラムを果たしておらず、単位修得状況は示されていない。大学院修士課程での留年率は2%未満、休学率0～1%である。博士後期課程においては、留年率は5～13%、休学率0～5%となり、大学院修士課程に比べやや増加している。大学院修士課程修了者の99%以上が2年の修業年数で修了し、修士（薬学）の学位が授与されている。博士後期課程では、修了者の約80%が3年の修業年数以内で、約90%が4年以内の修業年数で修了し、博士（薬学）の学位が授与されている。学生の研究活動は活発であり、計51名の学生が優秀発表賞やポスター賞及び論文賞等を受賞している。また、学術振興財団「コアツーコア・プログラム」の支援による派遣等、毎年9～16名の学生が海外に派遣されている。さらに、日本学術振興会特別研究員数は平成19年度では15名であり、在学生の25%が特別研究生として採用されている。採択率も毎年向上しており、平成19年度では56%と高いレベルに達しているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成18年度前期及び後期に実施された学業の成果に関するアンケート調査の結果、学生から見た指導の到達度や満足度について良好な回答がなされており、学業の成果・効果が上がっていることが認められる。指導に関する評価においても肯定的とする回答が大部分を占めている。また、学府修了時におけるアンケート調査の結果、専門領域における研究関連能力の修得において高い評価が回答されている。また、学生の学業・授業に対して取り組む姿勢も極めて高い。これらの結果より、当該学府の目的を達成する教育指導が行われていると判断される。また、学生が適切な研究指導を受けているかどうかを評価し、研究指導の質の向上に生かすことを目的として、大学院修士課程修了予定者に対して、研究指導に関するヒアリング調査を行ったなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、薬学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、薬学府が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院修士課程修了者の約 40～50%が技術者として製薬企業に就職している。約 13～30%が大学院博士後期課程に進学している。また、約 20～30%が保健医療従事者として就職している。一方、大学院博士後期課程修了者では、主に大学等の教員、製薬企業の研究者として就職しているが、一部は、保健医療従事者として就職しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、修了生、企業、医療機関より意見を聴取した結果、修了生からの満足度は高く、また学部卒業生及び学府修了生の就職先からもおおむね高い評価が得られているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、薬学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、薬学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

工学部

- I 教育水準 教育 24-2
- II 質の向上度 教育 24-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該学部は、六つの大学科8コースで構成され、学生定員充足率はすべて良好であり、当該学部の教育目標を達成するため、各専門分野の特色・内容に合わせた教育を行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、平成17年度に教育・研究活動及び点検・評価を支援する、企画支援室を設置し、ファカルティ・ディベロップメント（FD）・教育改善の計画・情報伝達の強化を行うとともに、授業アンケートの実施、工学講義賞の制定等、教育内容、教育方法の改善を実施するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、全学教育科目と専攻教育科目が楔形に配置され、4年一貫教育が実施されていること、特に、工学専門教育に加えて、創成型科目、コミュニケーション系科目、工学倫理系科目、工学マネジメント科目等を開講し、複眼的・広視野の技術者育成を目指すカリキュラムを実施するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、同学部では、各分野の専門知識だけでなく、技術者としての倫理観、社会に対する認識と理解をバランスよく習得させるため、コミュニケーション科目、工学倫理科目、工学マネジメント科目等を導入し、多様なニーズに対応した教育課程を構築するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容

は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、全学教育科目及び専攻教育科目において、教育目的に沿った授業形態・学習指導法の工夫に加えて、少人数制セミナー、演習、実験、実習及び専攻教育科目における社会体験型科目、インターンシップ、対話・討論型科目、フィールドワーク等も実施するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、多くの授業でレポート作成が課せられるとともに、オフィスアワー等による学習相談の対応、指導教員による履修指導等を実施するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、留年率、休学率が極めて低く、各学年時において学生は学力を適切に身に付けていると推察される。また、85%の学生が4年間で卒業しており、6年以上の学生は5%に満たないなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、全専攻教育科目で年2回の授業アンケートを実施し、その結果は授業の理解度で「そう思う」が60%前後、新しい内容を学べたかで「そう思う」が80%程度にあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、80%以上の学生が大学院に進学し、15%の学生が就職している。進学先・就職先の実績からみて、同学部の教育目的に沿った分野へ進むなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業・修了生及び就職先の関係者に対して行ったアンケート調査において、達成度評価が高いこと、特に、「基礎工学の理解と解析能力」「継続教育と向上心」の就職先の評価が高いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

工学府

I	教育水準	教育 25-2
II	質の向上度	教育 25-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該学府は、物質創造工学専攻から航空宇宙工学専攻まで 12 の専攻で編成され、工学府修士課程の学生定員 530 名の充足率は 150%以上であるが、工学府博士後期課程の学生定員 356 名の充足率は 94%を達成していること及び各専攻の教員数も適正に配置を行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育内容・教育方法の改善を扱う体制として、工学府教育企画委員会、学務委員会、また、改善に向けた実施体制として企画支援室を設置し、それぞれが連携して改善強化を図るなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、工学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、当該工学府では、専門性と総合性を重視した実践的な教育を目指し、エネルギー・資源・物質・環境・システムに関する専門知識と探求創造能力を育成するとともに、人間力・社会性・国際性等を大学院共通教育科目として開講するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、当該学府の教育目的・目標に沿って、先端・高等専門・能力開発・広域専門の 4 つの科目を開講し、また、大学院共通教育科目の履修指導、英語による専門教育等を実施するなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、工学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、工学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、少人数セミナー・実験・演習・実習など多様な授業形態を実施するとともに、複数指導教員による指導体制を整備し、研究テーマに対する適切な指導を行い、研究成果を学会発表につなげる研究指導上の多様な工夫を行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学生の自主的な学習を支援する学習室を設置し、自主的な学習を促すとともに、レポート作成課題を多くの科目に導入し、授業時間外学習を行わせていること、オフィスアワーや電子メールでの質問相談についての対応方法を開示するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、工学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、当該学府の留年率、休学率は、工学府修士課程・博士後期課程とも極めて低く、各学年時において学生は学力を適切に身に付けていること、また、工学府修士課程を2年間で修了する学生は97%、工学府博士後期課程を3年間で修了する学生は60%以上と高いなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、全専攻で授業評価アンケートを実施し、調査結果を教員へフィードバックし、授業改善、シラバス改善につなげているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、工学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、工学府修士課程修了者の 85%が就職し、15%が進学していること、工学府博士後期課程の 60%以上が大学あるいは企業で研究者として研究を職業とするなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、修了生の達成度評価に関する就職先のアンケート調査結果は高い評価を示していること、特に、試験・実験を計画遂行し、データを解析する能力及び生涯学習と向上心の達成度で高い評価を得るなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、工学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、工学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

芸術工学部

I	教育水準	教育 26-2
II	質の向上度	教育 26-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該学部内に五つの学科を設置し、芸術工学研究院の教員が各学科の教育を兼担する体制が整備され、専任教員数だけでも大学設置基準を大幅に上回る数を確保するとともに現場知識教育のために実務者を非常勤講師として採用するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、学務委員会の下に置かれた教育課程ワーキンググループのもとで教育課程の改善を行ない、ファカルティ・ディベロップメント（FD）ワーキンググループの活動の下でシラバス・授業方法等の改善を図っており、平成17年度には教育課程の大幅な見直しを行い新カリキュラムを導入するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、芸術工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、芸術工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、「全学教育科目」と「専攻教育科目」を楔形に配した上で、総合選択履修方式に分けた編成とし、芸術工学の理念である「技術の人間化」を目指している。また、平成17年度にカリキュラムの改善を行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、国際的な交流協定は優れており、継続的な留学生の受入れが漸増している。また、年1回のオープンキャンパスの他、年3回以上の高校生向け公開講座、9回の社会人講座や、産業界とのインターンシップ等、実社会との連携を活発に行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、芸術工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育

内容は、芸術工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、学部の教育目的を達成するために、講義、演習、実験、実習がバランスよく組み合わされており、新入生ガイダンスや履修ガイダンス等適切な学習指導法の工夫がなされているほか、シラバス公開、フィールドワークや学外演習の実施、プレゼンテーション機会の導入等を実施するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、授業では制作課題・プレゼンテーション・レポートを課し、オフィスアワーを設けて学生の自発的学習を助けているほか、「口頭試験」による創造的学習力の習得状況の確認、インターンシップの単位化等の学外学習への配慮を行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、芸術工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、芸術工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、単位修得率は4年生ではやや低くなるものの平均 85%程度であり、留年率・休学率はそれぞれ5%・1%と低く、さらに学生の社会的評価である受賞も年平均7名と高い水準にあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、授業評価を行ない、その調査結果を教育方法の改善へと積極的に役立てているのに加えて、卒業生へのアンケートの結果においても90%以上が肯定的な評価を行うなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、芸術工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、芸術工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、就職者数が増加し、就職・進学いずれでもない「その他」が平成16年度より20%から平成19年度は10%へと半減している。卒業生の半数が大学院への進学のほか、システムエンジニア・技術職・コンサルタント等デザインに関連する業種を有する国内有数の企業に就職しており、高次のデザイナーを養成するという学部の目的を十分に達成するなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、関係者からのアンケートによれば、企業の期待通りの活躍をしているとの評価が90%を超えるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、芸術工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、芸術工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

芸術工学府

I	教育水準	教育 27-2
II	質の向上度	教育 27-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該学府内に2専攻を設置し、芸術工学研究院所属の教員が教育を行う体制が整備されており、教員数は大学院設置基準を数倍上回っている。定員充足率は博士、修士課程ともに高く、平成19年度に入学定員増の概算要求が認められている。さらに、平成20年度に芸術工学専攻に4つのコース、デザインストラテジー専攻に博士課程を設置する準備等の学府再編を行うなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、学務委員会の下での教育課程ワーキンググループによって先述の学府再編によるカリキュラム整備のほか、社会との連携を見据えたプロジェクトやプロブレム・ベースド・ラーニング（PBL）などの実践的教育を行なっている。また、ファカルティ・ディベロップメント（FD）ワーキンググループによってシラバス・授業方法の改善を行い、シラバスの学外公開等の試みを行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、芸術工学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、芸術工学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準を上回る

[判断理由]

「教育課程の編成」については、学府修士課程2年・博士後期課程3年の教育課程を編成している。芸術工学専攻では平成19年度以前は5つの系と3つの領域の相互作用による授業構成を平成20年度以降さらに発展させて4つのコースを構成している。デザインストラテジー専攻では平成20年度に学府博士後期課程を整備するなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、多様化する学生ニーズや社会からの要請に対応して、教育課程に学府独自の外国の大学との交流協定による単位互換制度やイン

ターンシップによる単位認定を行なっている。また、文科省科学技術振興調整費による「先導的デジタルコンテンツ創成支援ユニット」、「ホールマネジメントエンジニア育成ユニット」のプログラムを実施中であり、社会からの要請に十分応えるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、芸術工学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、芸術工学府が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、学府の教育目的を達成するために、講義・演習を設置、さらにプロジェクトのような実践能力を涵養する科目を配している。また、多くの学生をティーチング・アシスタント（TA）として採用し、教える活動を通じて資質向上に役立てるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学外へのコンペ等への作品出展を推奨し、研究・制作活動に目標を持たせているほか、オフィスアワーの設置、シラバスの学外公開等を実施するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、芸術工学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、芸術工学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、留年率・休学率は博士課程 18%・9%、修士課程 8%・3%と低く、さらに学生の社会的評価である受賞も年平均 9 名と高い水準にあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、大学院修了生からのアンケートを行い、肯定的な回答が 70%を得、さらにそれから大幅にカリキュラムを改善するなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、芸術工学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、芸術工学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、修士課程修了者の就職者（90%）の80%近くが技術者、博士課程の就職者（60%）のうち60%が教員、30%が技術者としてわが国有数の企業に就職し、高度専門職業人としての高次の設計家を養成するという当該学府の目的を十分に達成するなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、芸術工学関連の企業のアンケートによれば、修了生の評価はほぼ100%が肯定的であり、企業が求める人材像にかなう人材養成を行うなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、芸術工学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、芸術工学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

システム情報科学府

I	教育水準	教育 28-2
II	質の向上度	教育 28-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該学府は5専攻から編成されており、専攻ごとに教育研究上の責任部局を決めて担当教員を配置する体制を整備するとともに、社会的要請に応じて学生定員の見直しも計画されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、学府教務委員会において、シラバスの充実やカリキュラムの見直しを行い、その結果がカリキュラム改正等に適切に反映されているほか、ファカルティ・ディベロップメント（FD）において新カリキュラムの実施状況等、様々なテーマの報告会や討論会を実施して講義内容の充実を図っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、システム情報科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、システム情報科学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、専攻ごとの教育目標を達成するための専攻授業科目のほかに、指導教員が必要と認めたときに学部の科目を履修する「学部連携科目」や当該学府以外の指定科目も履修できる制度があり、多様な専門性を活かす工夫がされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学生に対する授業アンケートや企業人事担当者等への聞き取り調査を実施しており、それらの結果を基にカリキュラムの検証をしている。専攻内の専門分野ごとに関連する科目の系統図を作成し、学生の科目選択の参考に供している。実践的教育を主眼とした社会情報システム工学コースを開設しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、システム情報科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結

果、教育内容は、システム情報科学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、専攻分野の特性に沿って教育を進めるために「基礎科目」、「専攻科目」、「演習科目」、「実習科目」等バランス良く開講しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、各授業において演習・レポート等を課して学習を促し、電子メール等による授業内容の質問・相談を周知させている。学習支援のために自習室や情報機器室の整備を行い学生全員にノートパソコンを貸与するなど、学習環境の改善にも取り組んでいる。さらに各学生の達成状況をポートフォリオで確認できるシステムを構築しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、システム情報科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、システム情報科学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、単位修得状況はほぼ 100%であり、留年者及び休学者は数人のみにとどまっている。関連する学会における学生の受賞件数が過去4年の平均で年 27.25 件あるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、「九州大学の教育研究と学生生活に関する大学院学生アンケート」によれば 77%の学生が、知識が深くなった、又は、学力が向上したと回答しており、教員の研究指導についても大部分の学生が満足しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、システム情報科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、システム情報科学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院修士課程修了生に対しては広範な分野から10倍以上の求人があり、多くの産業分野に就職するとともに、大学院博士課程へも進学している。博士課程修了生は、産業分野へ就職するとともに、大学等の教員にも採用されているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、平成19年4月に実施した就職先の関係者からのアンケートによれば、13項目の質問に対して4段階評価で平均値が3ポイントを超える項目が、例えば、「試験・実験を計画遂行し、データを解析する能力」等8項目あるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、システム情報科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、システム情報科学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

総合理工学府

I	教育水準	教育 29-2
II	質の向上度	教育 29-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該学府は5専攻から編成されており、学府の教育目的をより具体化した専攻ごとの教育目的に合わせて教員が配置され責任部局も明示されている。大学院博士後期課程の定員充足の適正化に向けた取組もされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育上の課題は学務委員会で審議し、教育内容の改善、授業科目の整備、シラバスの整備等に取り組み成果を上げている。ファカルティ・ディベロップメント（FD）を定期的実施しており、特に教員間の相互授業参観により講義方法の改善も図られているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、総合理工学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、総合理工学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、各専攻の教育目的に沿った授業科目に加えて、様々なバックグラウンドの学生に対する基礎教養科目としての「共通科目」、融合分野への理解を深めるための「学府共通科目」、専攻間を横断する「専攻横断科目」が開設されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、学生のニーズや社会からの要請に応じて、教育課程の編成や履修方式を定めているのみならず、化学・材料分野では実践的研究人材育成コースを、さらに、世界各国からの優れた学生のための研究留学生特別コースを開設しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、総合理工学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教

育内容は、総合理工学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、様々なバックグラウンドを持つ学生に対する「共通科目」、専攻間を横断する「横断科目」、さらに、各専攻の教育目標に合わせた必修科目、選択必修科目や多数の選択科目を開設している。少人数セミナーでは物事を深く考える能力等の向上を図っている。また、大気海洋環境システム学専攻では海洋観測演習を行うなど多様な工夫がなされているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学生の主体的な学習を促すため、各授業において課題を課すなどの取組が行われている。授業内容に関する質問・相談のためにオフィスアワーの設定や電子メールの準備がされている。さらに、自習室や e-learning 対応が可能な情報機器室が整備されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、総合理工学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、総合理工学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、単位修得状況は、大学院修士課程、大学院博士後期課程とも 97%以上の単位修得率であり、留年率は減少する傾向にある。一方で休学率は多少増加傾向も見られるが、学生相談担当教員の配置等の対応をしているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、専攻に関する学生へのアンケートによれば、基礎科目、専門科目、他専攻の科目共に「概ね理解できる」と「良く理解できる」を合わせると約 70%になり、さらに、研究室のテーマと自分のテーマについての評価が極めて高いなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、総合理工学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、総合理工学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院博士後期課程、大学院修士課程共に修了生は、製造業を中心に専門的・技術的職業に従事しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、修了生への平成 18 年 2 月と平成 19 年 9 月に行われたアンケート調査によると、講義に対する評価が高く、研究指導、研究の仕事に対する役立ち度も高いなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、総合理工学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、総合理工学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は 5 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

農学部

I	教育水準	教育 30-2
II	質の向上度	教育 30-4

Ⅰ 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、4コース11分野を設置して学科目制を実施して学生数は1,001名である。教員数は157名であり、教員一名当たり約5.3名の学生を担当しており、少人数の教育を実施しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、学部の教育目標達成のため、学務委員会等が取り組み、外部諮問委員会を含む点検評価を実施しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、「基礎概要科目」、「共通基礎科目」、「コース概要科目」が用意されて、多様な入学生に対応するメニューとなっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、授業評価や卒業生のアンケートを通じて、学務委員会等が要請等を抽出する体制ができているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、年度の進行に合わせて、講義、演習、実験実習や実地見学、卒業研究を組み合わせでバランスよく開講し、これをシラバスで公開しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学生に対してオフィスアワーの設定、授業内容等に対する質問・相談対応法の開示を行っており、またグレード・ポイント・アベレージ (GPA) 制度の導入を行って単位の実質化をしているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、4年の修業年数で卒業する数がほぼ90%であり、留年率は3.9%、休学率は1.1%である。教育職員免許状の取得者は15名いるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生を対象に実施した授業評価アンケート結果において、学生の到達度と満足度から、学業の成果・効果が上がっていることが認められ、当該学部の目的を達成する教育が行われていると窺えるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、農学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、卒業生の約7割が大学院に進学し、就職

者の多くが製造業と中央官庁や地方自治体に技術者や事務従事者として就職しており、当該学部の教育目的に沿った人材を育成しているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業生を対象としたアンケート調査結果から、「教育課程・経験などの満足度」、「教育による能力や知識の満足度」、「教員の影響度」のそれぞれの項目について、おおむね良好な満足度を得ている。また、就職先を対象としたアンケート調査結果から、当該学部卒業生の能力等に関する就職先の評価で、当該学部の教育が、学生の能力養成に貢献していると窺い知れる高い評価を得ているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、農学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

生物資源環境科学府

I	教育水準	教育 31-2
II	質の向上度	教育 31-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準を上回る

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、8専攻で構成され、学生数は大学院修士課程で478名、大学院博士後期課程で223名であり、担当教員191名が担当しており、教員一名当たり大学院修士課程で2.21名、大学院博士後期課程で1.17名を担当しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、当該学府の教育目標達成のため、種々の新たな取組を専攻教員会議が自律的に行い、学務委員会が体系化と調整を行い、学務委員会と自己点検・評価委員会並びに学外委員からなる教育研究諮問会議が点検評価を実施して、活発に改善に向けて取り組んでいるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、生物資源環境科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、生物資源環境科学府が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、8専攻において、講義、演習、特別研究が体系的に編成されている、新たに修士博士一貫のフードサイエンス教育コースと留学生向けの国際開発研究特別コースを設置したなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、授業評価や留学生のアンケート結果をフィードバックして、組織的に授業改善に努めており、さらに、フードサイエンス教育コースや国際開発研究特別コースが新たに開設されて社会の要請に応えるかたちで開始されているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、生物資源環境科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、生物資源環境科学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、193 科目の講義と 101 科目の演習、74 科目の実験等を組み合わせてバランスよく開講し、当該学府の幅広い学問領域を網羅しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、学生に対してシラバス、オフィスアワー、授業内容等に対する質問・相談対応法の開示を行っており、また論文投稿や学会口頭発表を経験させて自主的な学習意欲を高める工夫を行っているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、生物資源環境科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、生物資源環境科学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準を上回る

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、大学院修士課程と大学院博士後期課程ともにそれぞれ修業年限 2 年及び 3 年での修了率はそれぞれ約 96%、約 74%と高く、また多くの学生が優秀学会賞等を受賞しており、質の高い教育研究指導が行われているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成 16 年度から段階的に授業改善のためのアンケート調査とその分析、授業評価を実施して改善に取り組んでおり、学生アンケートによると、学業達成度の評価と指導教員の能力に関して高い評価を得ているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、生物資源環境科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、生物資源環境科学府が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院修士課程修了後、就職した者については 182 名中 131 名が、また大学院博士後期課程修了生の 52 名中 50 名が専門的・技術的職業に就いており、教育目的である高度専門職業人及び研究者を育成しているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、修了生の就職先の調査において、修了生の能力等評価において「仕事に対する使命感や責任感が強い」、「実務能力がある」、「期待どおりの活躍をしている」等良好な評価を得ているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、生物資源環境科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、生物資源環境科学府が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は 4 件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

1.	文学部・人文科学研究院	研究 1-1
2.	教育学部・人間環境学研究院	研究 2-1
3.	法学部・法学研究院	研究 3-1
4.	経済学部・経済学研究院	研究 4-1
5.	理学部・理学研究院	研究 5-1
6.	医学部・医学研究院	研究 6-1
7.	歯学部・歯学研究院	研究 7-1
8.	薬学部・薬学研究院	研究 8-1
9.	工学部・工学研究院	研究 9-1
10.	芸術工学部・芸術工学研究院	研究 10-1
11.	農学部・農学研究院	研究 11-1
12.	比較社会文化研究院	研究 12-1
13.	言語文化研究院	研究 13-1
14.	数理学研究院	研究 14-1
15.	システム情報科学研究院	研究 15-1
16.	総合理工学研究院	研究 16-1
17.	生体防御医学研究所	研究 17-1
18.	応用力学研究所	研究 18-1
19.	先導物質化学研究所	研究 19-1
20.	情報基盤研究開発センター	研究 20-1

文学部・人文科学研究院

I	研究水準	研究 1-2
II	質の向上度	研究 1-3

Ⅰ 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、人文学としての哲学・歴史学・文学の各領域の研究者を擁する組織として、平成 19 年度の教員一名当たりの著書・論文等の発表が 1.7 件、口頭発表が 1.0 件となっており、十分な水準を維持している。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の平成 19 年度の採択数が 85 件（教員一名当たり 1.7 件）である。これは 21 世紀 COE プログラム「東アジアと日本：交流と変容」に伴う研究環境の整備と刺激が大きい。また、九州という地理的位置から、当該組織によるアジアとの研究交流には大きな期待が寄せられており、学部内に多くの学会事務局を置き、九州、東アジア地域の学会活動の拠点として重要な役割を果たしていることは、優れた成果である。

以上の点について、文学部・人文科学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、文学部・人文科学研究院が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、構成員の活発な研究活動に基づく成果が数多く公開されており、21 世紀 COE プログラムの研究成果は、内陸圏・海域圏ネットワークとイスラム、東アジア古代国家論等に結実している。その他、優れた研究成果として、例えば、純化の思想家としてのルソー研究や高麗美術の再定置等が挙げられる。社会、経済、文化面では、原典の正確で豊かな理解を踏まえた研究成果を社会に還元するとの姿勢から、翻訳書や啓蒙書を発表している。そのなかで、中国魏晋南北朝の歴史研究、イスラム世界の農書の解説と日本・中国の農書との比較研究等を行うなどの相応な成果がある。

以上の点について、文学部・人文科学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、文学部・人文科学研究院が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

教育学部・人間環境学研究院

I	研究水準	研究 2-2
II	質の向上度	研究 2-3

1 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の教員数は 66 名（教授 30 名、准教授 28 名、助教 8 名）であり、一名当たりの査読付き平均論文数は 2.3 件であり、査読の無い論文（刊行物を含む）については 7 件である。また、相応のシンポジウム研究発表が行われている。これらの数値について教授・准教授・助教の間に大きな差が無く、若い研究者も活発に研究活動を行っている。また、21 世紀 COE プログラムに基づく研究活動の成果として、10 回の国内フォーラムと 7 回の国際シンポジウムを開催している。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数と採択金額（それぞれ新規＋継続）は過去 4 年間を通じて毎年平均 42 件及び 1 億 3,000 万円であり、特に金額が毎年増加傾向にある。平成 19 年度の調査では、新規採択率が 33%となっており、全国平均（27%）を上回る。他の競争的資金については、受託研究費、共同研究費、奨学寄附金の受入れ合計件数が過去 4 年間の平均では毎年 33 件（8,000 万円）であり、活発な研究活動が実施されている。このように論文数、科研採択数、科学研究費補助金獲得額も大きく、しかも増大の傾向にあることなどは、優れた成果である。

以上の点について、教育学部・人間環境学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、教育学部・人間環境学研究院が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、人間環境を取り巻く諸問題を多方面から科学的に解明し、新時代の共生社会を創造していくための研究を行っており、人間環境の問題を解明しようとする研究が多く生まれている。例えば、臨床心理学に基づいた精神分析に関する研究や、実用的な昼光照明の設計を可能とする天空輝度分布の国際標準化についての研究で卓越した成果を上げている。社会、経済、文化面では素材型木造工法による建築作品やイタリア・ポンペイ遺跡のレーザー測量等の実地研究や児童発達障害の研究に

において優れた成果を上げている。また、過去4年間の研究成果によって、国内学会賞2件、財団等賞2件、文部科学大臣表彰（若手科学者賞）1件、外国の科学アカデミー会員1件を受賞している。これらの状況などは、優れた成果である。

以上の点について、教育学部・人間環境学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、教育学部・人間環境学研究院が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

法学部・法学研究院

I	研究水準	研究 3-2
II	質の向上度	研究 3-2

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、研究院の研究遂行のため、適切に部門を配置するとともに、総合企画委員会を置くことにより、研究の統合が図られていることで、共同プロジェクトの実施体制は高い水準にある。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の獲得状況が、平成 19 年度において、件数が 38 件、金額が 1 億円弱であり、件数、金額とも相当の水準であることなどは、優れた成果である。

以上の点について、法学部・法学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、法学部・法学研究院が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、必ずしも業績の判定結果が高いとは言えないが、学術面では、多様な法文化法制度に関する理論的歴史的動態的な研究の項目をはじめとして各項目について数多く生産されており、一定の貢献をしていると判断できる。社会、経済、文化面では、調停、企業不祥事などに対応する著作において研究業績が発表されており、新領域を含めた課題に取り組むなどの相応な成果がある。

以上の点について、法学部・法学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、法学部・法学研究院が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

経済学部・経済学研究院

I	研究水準	研究 4-2
II	質の向上度	研究 4-2

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、全教員（平成 19 年度で 64 名）が平成 16 年度以降の 4 年間に著書 83 件、論文 207 件、学会報告 247 回を発表しており、教員中 20 名以上が学会の役員を務めている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択件数（採択金額）が年平均 28 件（4,512 万円）であり、そのほか学部同窓会からの寄付による国際学術交流振興基金、南信子教育研究基金（若手教員の出版助成）、経済学研究院重点研究プロジェクト補助金などが活用されているなどの相応な成果がある。

以上の点について、経済学部・経済学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、経済学部・経済学研究院が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、日本の海運企業の研究や日本の産学連携技術推進政策に関する研究などの卓越した業績がある。社会、経済、文化面では、例えばエネルギーと環境政策に関する研究が優れた業績としてあり、経済史の観点から今日の環境問題への知見を与えている。また、平成 16 年度以降の 4 年間に 5 名の教員がレオンチェフ記念賞をはじめ学会等から受賞を受けている点は評価できるなどの相応な成果がある。

以上の点について、経済学部・経済学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、経済学部・経済学研究院が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

改善、向上しているとはいえない

当該組織から示された事例は3件であり、その中で「改善、向上しているとはいえない」と判断された事例があった。

該当する事例の判断理由は以下のとおりである。

○「外国語論文奨励制度」については、本制度の運用に関する説明が見当たらず、また、その成果として提示された論文は、卓越した水準にあるという判定はされていない点で、改善、向上しているとはいえないと判断される。

理学部・理学研究院

I	研究水準	研究 5-2
II	質の向上度	研究 5-2

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、「Web 科学博物館」や「島原火山都市国際会議」等に見られるようにレベルも高い。研究資金の獲得状況については、リサーチコア研究拠点、研究教育拠点等、大学・学部を挙げて研究に取り組む姿勢が、21世紀 COE プログラムとそれに続くグローバル COE プログラムの採択等につながったことなどは、高い評価を得ている。さらに、「次世代型スーパースター養成プログラム」に採択されたことにより、将来にわたって、優れた研究者を育成する道が開けたことなどは、優れた成果である。

以上の点について、理学部・理学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、理学部・理学研究院が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、各分野において優れた研究成果が得られており、国際的にレベルの高いジャーナルに発表されている。例えば、ノーベル受賞者（Zwail）の提唱したモデルの誤りを指摘した論文、植物の二酸化炭素依存気孔開閉の論文等がある。これらの状況などは、相応な成果である。

以上の点について、理学部・理学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、理学部・理学研究院が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

医学部・医学研究院

I	研究水準	研究 6-2
II	質の向上度	研究 6-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の原著数 633 件、総説 648 件、著書 256 件の計 1,537 件で、そのうち査読によるものが 41.2%（633 件）、欧文が 46.9%（721 件）を占め、教員（助教以上 249 名）一名当たりの平均論文数が 6.2 件となっている。原著論文のインパクトファクター（IF）は一件当たり 3.4、IF10 以上 57 件、IF20 以上 10 件となっている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数（採択金額）が平成 16 年度から 19 年度にかけて合計 642 件（29.1 億円）、年平均 161 件（7.3 億円）で、採択率が過去 4 年間を通して 51.5%（申請 980 件中 505 件採択）となっている。その他の競争的外部資金の受入状況は、平成 16 年度以降で 21 世紀 COE プログラム 1 件、他の研究院と共同で 21 世紀 COE プログラム 2 件、グローバル COE プログラム 1 件、九州大学の戦略的教育研究拠点プログラム等、活発な研究活動が展開されていることは、相応の成果である。

以上の点について、医学部・医学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、医学部・医学研究院が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、医学・生命科学領域における研究が IF の高い国際誌に数多く掲載されている。その他の研究成果については、国内外の学会賞や文部科学大臣表彰科学技術賞等の受賞実績を有する。卓越した研究成果として、例えば、「ヒト幹細胞システムの医学的応用への研究拠点の創出」プログラムを通じて、各臓器分野における幹細胞・前駆細胞、がん幹細胞を同定し、その機能解析を進めていることは、相応の成果である。

以上の点について、医学部・医学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、医学部・医学研究院が想定している関係者の「期待される水準に

ある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

歯学部・歯学研究院

I	研究水準	研究 7-2
II	質の向上度	研究 7-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、研究論文の数に減少傾向がみられる。しかし、歯学研究院において活発な研究活動が行なわれていること、また論文等を通して研究業績の学内外への発信が行われていることから、歯学研究院における研究が学内外に広く認められている。研究は、「口腔組織の再生、再建医療研究」及び「口腔健康科学」を重点研究プロジェクトの柱におき、講座横断的かつ起動的な研究システムを構築してきた。また、若手研究者自立的な研究環境整備促進事業次世代研究スーパースター養成プログラムを通じた学際的研究を進展させ、九州大学 COE（リサーチコア）にて、研究活動、研究費申請、人材流動化、講演会等の対外活動の支援を行い、全学的に連携して国際的歯学教育研究も推進している。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金やその他の研究費が維持されていることは、優れた成果である。

以上の点について、歯学部・歯学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、歯学部・歯学研究院が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、重点研究プロジェクト「口腔組織の再生・再建医療研究」におけるインパクトファクター（IF）10以上の原著論文数、総説は4件、IF5以上では19件に上り「口腔健康科学」におけるIF10以上の原著論文数は3件、IF5以上では16件に上る。また、両研究プロジェクトの促進してきた講座横断的な研究成果も多く認められ、独創性の高い活発な研究活動が行われていることは、優れた成果である。

以上の点について、歯学部・歯学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、歯学部・歯学研究院が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

薬学部・薬学研究院

I	研究水準	研究 8-2
II	質の向上度	研究 8-3

1 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、4年間の欧文原著発表数は524件であり、これは1年間で1教員（教員数50～54名）当たり2.4～2.6件の論文を発表したことになる。一件当たりのインパクトファクター（IF）は平均3.21である。特許出願数は22件を数える。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金は4年間で170件採択され、総額9億8,000万円を超える。平成16年度より、採択額、採択件数、採択率ともに右あがりであり、平成18、19年度の教員一名当たりの採択件数は0.93件、また採択率は48%、59%と高い。なお、1教員当たりの平均配分額は年間、280～490万円となる。また、4年間の共同研究として57件、1億2,000万円を、受託研究として45件、7億5,000万円、寄付金として217件、3億2,000万円を受け入れている。また、薬学研究院では、産学連携の促進を中期計画に掲げ推進しているが、共同研究は年を追って契約件数、金額ともに顕著な増加を示している。また、寄附講座として、平成16年度には「レドックス医薬科学講座」平成19年度には「創薬腫瘍科学講座」が開設されている。さらに、科学技術振興調整費、学術創成研究等の大型プロジェクト研究が進められていることから、活発な薬学研究が実施されていることは、相応の成果である。

以上の点について、薬学部・薬学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、薬学部・薬学研究院が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、卓越した論文の平均IFが16.5であり、優れた論文の平均IFは8.8であった。これら発表論文の内訳は生物系薬学9件、有機系薬学7件、物理系薬学1件、医薬系薬学7件と薬学研究院の構成に従いバランスよく分布しており、卓越した研究成果は、麻酔・蘇生学分野に認められる（選定に際して、薬学研究院の教員がコレスポンディングオーサーか、それに匹敵する著者であることを考慮したとあ

るのはフェアである。) ことなどは、相応の成果である。

以上の点について、薬学部・薬学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、薬学部・薬学研究院が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

工学部・工学研究院

I	研究水準	研究 9-2
II	質の向上度	研究 9-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況について、平成 18 年度の教員一名当たりの年間平均論文数は 4.7 件と高い水準を維持している。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数（採択金額）は、年平均約 235 件（9 億円）で、特に若手研究（A）の採択が大きく伸びている。その他競争的外部資金の受入れ状況は、21 世紀 COE プログラム 2 件、グローバル COE プログラムが 1 件、科学技術振興調整費、主要 5 分野研究開発委託事業等大型プロジェクト事業 10 件（平成 19 年度）となっている。また、平成 18 年度では受託研究 96 件、共同研究 123 件、使途特定寄附金 318 件を受け入れており、活発な研究活動が展開されている。特に受託研究の受入れ件数が大きく伸びていることなどは、優れた成果である。

以上の点について、工学部・工学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、工学部・工学研究院が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノ・材料、エネルギー、社会基盤、学際・複合・新領域の分野で 12 のリサーチコアを形成し、中核研究拠点を狙った研究活動を行っている。特に、分子情報科学の機能イノベーションと水素エネルギー利用に関する研究は、世界をリードする研究教育拠点を形成しつつある。社会、経済、文化面では、地球資源システム工学、機械工学、環境都市、建設デザインの研究分野には社会的に有用性の高い研究成果が多く見られる。平成 16 年度から平成 18 年の 3 年間に、様々な研究分野で、文部科学大臣表彰、内外学会論文賞等約 50 件の受賞論文があるなど、優れた成果がある。

以上の点について、工学部・工学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、工学部・工学研究院が想定している関係者の「期待される水準を

上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

芸術工学部・芸術工学研究院

I	研究水準	研究 10-2
II	質の向上度	研究 10-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況について、教員一名当たりの平均原著論文数は1年当たり約1.6件であり、85%以上が査読つき雑誌、このうち49%が外国語であり、国際的な学術活動が展開されている。著書は年平均36件を数え、うち22%が単著であり、学術の社会的還元が評価できる。研究院を特色づける業績である作品等は年平均28件を数え、多岐に及ぶ創作活動が実施されている。学会報告等は年平均391件、一名当たり4件であり、うち23%が国際会議である。研究資金の獲得状況としては、科学研究費補助金を含む外部資金は年平均112件、金額にして2億円以上のプロジェクトが定常的に進行中である。うち科学研究費補助金は約1億2,000万円を占め、基盤研究(S)を3件並行して実施するとともに、常に40件近くのテーマが実施されている。21世紀COEプログラム1件が採択されているほか、九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクトとして6件が実施されている。これらの研究に対して累積23件(学術9件、芸術14件)にわたる受賞が与えられているほか、マスコミ報道年平均59件等、社会的評価も高いことなどは、優れた成果である。

以上の点について、芸術工学部・芸術工学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、芸術工学部・芸術工学研究院が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、知覚心理学、音声科学、文化史、言語学、情報技術、人間工学、医用技術などのほかCG作品、建築等、幅広い研究活動が展開している。優れた研究成果としては、例えば映像作品「SAMURUNORI」、都市空間の近世史研究、両眼立体視における奥行き知覚研究などが高い評価を得ている。社会、経済、文化面においては、デザインのビジネス展開のための実践的研究において卓越した研究成果が認められる。特に、不焼成リサイクルしっくいセラミックスのデザインの研究は、グッドデザイ

ン賞の受賞など卓越した評価を得ている。また、優れた研究成果としては、九州大学病院小児医療センター、片山雅史展等の作品があげられるなどの優れた成果がある。

以上の点について、芸術工学部・芸術工学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、芸術工学部・芸術工学研究院が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

農学部・農学研究院

I	研究水準	研究 11-2
II	質の向上度	研究 11-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成19年度、論文や著書の発表については、査読付き論文を500件近く発表しており、一名当たり2件以上である。著書・総説等は、平成19年度で150件以上ある。国際会議の発表数も平成19年度で200件を超えて、教員の学会賞や論文賞も10件を超えている。研究資金の獲得状況については、平成19年度で科学研究費補助金の採択が157件あり、総額6億5,849万円になっている。大型の研究費としては、学術創成研究1件、特定領域研究5件、基盤研究（A）9件、若手研究（A）1件となっている。共同研究は、80件を超え、研究費として総額3億円を超えている。また、受託研究も約80件であり、研究費総額は5億円弱となっていることなどは、優れた成果である。

以上の点について、農学部・農学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、農学部・農学研究院が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、新農学生命科学領域における卓越した研究成果として、光合成のメカニズム、カビのゲノム解析、カイコの繭色の研究があり、高い評価を受けている。環境科学領域では、繊維素材の新利用法の開発が高い評価を受けている。アジア研究領域においては、アグリフードシステムの解析において優れた成果がある。食料学領域においては、食品の機能性解析で成果を上げており、緑茶カテキンの細胞膜受容体の同定研究は、卓越した成果として高い評価を受けている。また、過去4年間の研究成果によって、平成16年日本農学進歩賞、平成17年日本学術振興会賞や平成19年度文部科学大臣表彰若手科学者賞を受けていることなどは、優れた成果である。

以上の点について、農学部・農学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、農学部・農学研究院が想定している関係者の「期待される水準を

上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

比較社会文化研究院

I	研究水準	研究 12-2
II	質の向上度	研究 12-3

Ⅰ 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、『比較社会文化叢書』を平成18年度から平成20年2月に12巻刊行し、研究活動をまとめた形で示している。その他に、平成19年度の状況は、教員54名、原著論文は44件、うち半数以上が査読のある雑誌に発表され、招待論文と合わせて6割が専門的な審査又は評価を受けている。また、半数以上が外国語で執筆され、4割が国際誌である。学会発表等は、39件で、4割が国際会議である。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数（採択金額）が、平成19年度で34件（7,909万円）、採択率は平成18年度において36.4%である。他の外部研究資金と合わせ、年平均約40件（8,000万円）である。その他、21世紀COEプログラム「東アジアと日本：交流と変容」に研究院メンバー8名が参加した。共同研究は39件（代表及び分担）であり、そのうち国際共同研究は23件あるなど、活発な研究活動が展開されていることは、相応な成果である。

以上の点について、比較社会文化研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、比較社会文化研究院が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、モンスーンアジアの自然環境の成り立ちとその変遷の解明及びそこに棲息する生物学の多様性の保全に関する基礎研究や、科学技術史、中国文学、考古学、日本史などで優れた研究成果が上がっている。卓越した研究業績として、例えば、ガリレオの運動論の形成過程を再構成し、毎日出版文化賞を受賞した研究や、日本における中国宋代文学研究を中国にまとめた形で初めて示し中国で大きな反響を呼んだ著作などがある。社会、経済、文化面では、グローバルとローカルを交差させるグローバルな視点から共生市民社会の在り方を探求する研究などで社会的に意義ある研究成果がある。卓越した研究業績として、例えば、戦後日本の科学技術の社会史に関する

2,000 ページを超える体系的通史を英語版で刊行した貴重な業績がある。また、過去4年間の研究成果によって日本学術振興会賞、毎日出版文化賞、学会論文賞など5件を受賞した。これらの状況などは、優れた成果である。

以上の点について、比較社会文化研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、比較社会文化研究院が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

言語文化研究院

I	研究水準	研究 13-2
II	質の向上度	研究 13-3

Ⅰ 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、論文、著書及び学会発表等が教員一名当たり年平均 2.7 件（うち、学会発表等が 1.0 件、教材開発や翻訳が 0.5 件）であり、多方面での研究活動が活発である。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数が年平均 15 件で、その獲得金額は約 1,700 万円である。また、その他の外部資金約 200 万円を獲得している。特定の教員の貢献に依存することなく、組織全体の研究活動の活性化が期待されるなどの相応な成果がある。

以上の点について、言語文化研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、言語文化研究院が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、共同研究より個別的研究において優れた業績をあげている。特に、卓越した業績として、20 世紀初頭のドイツでの「ドイツ青年運動」を解明し、トーマス・マン研究を前進させた研究が挙げられる。その他、優れた業績として、日本の本草学の誕生時期に新説を提示した研究、日本の本草学の基礎を作ったケンペルの遺したスケッチ集の解読研究等があり、今後のさらなる展開が期待される。社会、経済、文化面では、教科書や辞典の編集において多くの成果を上げている。また、現在国際的に問題視されている中国の保健政策のような社会的関心の高いテーマについて、迅速に研究を行ったなどの相応な成果がある。

以上の点について、言語文化研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、言語文化研究院が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

なお、提出された研究業績説明書のうち、優れた業績と判断できるものが少なかったことから、今後の自己評価能力の向上が期待される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

数理学研究院

I	研究水準	研究 14-2
II	質の向上度	研究 14-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の一名当たりの査読付き論文発表は平均 1.5 件であり、数学分野においては高い水準である。また、国際学会での発表は、招待講演 48 件を含む 87 件に達している。数学の基礎研究を基盤に置きつつ、数学と他分野との融合研究接点の形成に努めている。また、国際研究集会を開催するなど国際的研究交流に努めている。研究資金の獲得状況については、平成 19 年度における科学研究費補助金の採択数が、基盤研究（S）の 1 件、基盤研究（A）の 2 件を含め 81 件（1 億 4,000 万円）になっている。これは数学分野においては相当高い水準である。また、21 世紀 COE プログラムにより、平成 19 年度に 1 億 1,000 万円獲得しており、外部資金獲得で高い水準を維持していることなどは、優れた成果である。

以上の点について、数理学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、数理学研究院が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、平成 16 年度から平成 19 年度に日本数学会関連の受賞が 4 件あり、そのうち卓越した研究業績として、代数的組合せ論に関する研究といった先端的な研究業績が生まれている。また、平成 19 年度における国際会議招待講演者数は 48 件である。さらに、21 世紀 COE プログラムを基礎に数学の基礎研究と応用研究の融合に努めている。これらの状況などは、相応な成果である。

以上の点について、数理学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、数理学研究院が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

システム情報科学研究所

I	研究水準	研究 15-2
II	質の向上度	研究 15-3

Ⅰ 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成19年度の教員一名当たりの年間論文数が5.4件であり、高いアクティビティ水準を維持している。当該研究院の研究内容は、わが国の科学技術基本計画の重点政策である4分野にすべて関係しており、個々の研究者の専門分野での活動のみならず、地域社会や産業界との連携も行っている。研究資金の獲得状況については、大型の研究資金を中心に、科学研究費補助金、受託研究費、共同研究費等過去4年で30%以上増加している。また、次世代研究スーパースター養成プログラムを推進し、優秀な若手研究者が自立して研究に邁進していることなどは、優れた成果である。

以上の点について、システム情報科学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、システム情報科学研究院が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、情報科学と電気電子工学を融合した分野において先端的な研究成果が数多く生まれている。卓越した研究成果として、例えば、データ圧縮に関する研究、並列計算システムに関する画期的な研究、CVDプラズマ中のナノ粒子に関する研究、高磁界下にある高温超伝導線内の損失分布に関する研究、磁気的なバイオ免疫検査装置の開発等があり、国際的に高い評価の研究成果を上げている。社会、経済、文化面では、文部科学省の知的クラスター創成事業で、システムLSI設計開発拠点の形成を推進し、無線通信用LSI、リコンフィグラブルアーキテクチャ、組み込みソフトウェア等の分野で多くの研究成果を上げ、人材育成の組織を構築して100社以上の企業を地域に集積させることに成功している。また、過去4年間の研究成果によって、154件の賞を受賞していることなどは、優れた成果である。

以上の点について、システム情報科学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案し

た結果、研究成果の状況は、システム情報科学研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

総合理工学研究院

I	研究水準	研究 16-2
II	質の向上度	研究 16-2

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の教員一名当たりの平均論文数が 5.8 件であり、英文の論文が 75%（平成 18 年度）を占めている。講演は教員一名当たり平均 10.4 回であり、学会等においても様々な役割を果たしている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数は、過去 4 年の年平均で 54 件、金額にして年平均約 2 億円である。受託研究は、年平均で 17 件（1 億 887 万円）、共同研究は 34 件（8,012 万円）となっているなどの相応な成果である。

以上の点について、総合理工学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、総合理工学研究院が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、物質、エネルギー、環境及びその融合領域において高い評価の研究成果を上げている。卓越した研究成果として、金属及びセラミックス材料の力学的特性について、とりわけ高温強度と粒界破壊に関する一連の理論的、実験的研究があり、先導的な基礎理論として国際的にも高く評価されている。社会、経済、文化面では、卓越した研究業績は見られなかったものの、都市建築環境に関する一連の研究活動は、建築環境工学の進展に貢献している。これらの状況等は、相応の成果である。

以上の点について、総合理工学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、総合理工学研究院が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

生体防御医学研究所

I	研究水準	研究 17-2
II	質の向上度	研究 17-2

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成19年度の教員一名当たりの平均英文原著論文数は、3.3件で、その11%がインパクトファクター（IF）10以上の学術誌に掲載されている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数（採択金額）が年平均60件（4億5,800万円）で教員一名当たり1,060万円となり、採択率は過去4年間を通じて平均が57%となっている。その他の競争的外部資金の受入れ状況は、平成16年度以降で21世紀COEプログラム、グローバルCOEプログラム各1件、共同研究が31件、受託研究が91件となっているほか、総長発意による戦略的教育研究拠点デジタルメディスン・イニシアティブと次世代研究スーパースター養成プログラムを実施しており、活発な研究活動が展開されていることは、優れた成果である。

以上の点について、生体防御医学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、生体防御医学研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、発生学、機能ゲノム科学、プロテオミクス、構造生物学を主とするポストゲノム科学を推進し、特に感染症・免疫アレルギー学及び脳神経疾患の領域で国際的に評価の高い研究成果を上げている。相当数の学術論文が高いIFの国際一流専門誌に掲載され、かつ卓越した業績と認められたことは、優れた成果である。

以上の点について、生体防御医学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、生体防御医学研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

応用力学研究所

I	研究水準	研究 18-2
II	質の向上度	研究 18-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成19年度の教員一名当たりの学術論文等の平均出版件数は5.44件であり、そのうち査読によるものが4.10件（75%）である。日本語以外の言語による論文数は一名当たり平均4.06件であり、論文数全体の75%を占めている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数（採択金額）が年平均約30件（特別推進研究を除くと約1億円）となっている。さらに、受託研究、共同研究、寄付金の総額は年ごとに増加傾向にあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「共同利用・共同研究の実施状況」のうち、3部門と2センターは、適宜、連携しながら国内共同研究と国外の様々な機関との国際共同研究を推進しているほか、研究所主催の国際会議、セミナーも実施している。全国共同利用研究の実施件数は、一般研究は減少しているが、特定研究と研究集会は増加していることなどは、優れた成果であることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、応用力学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、応用力学研究所が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、基礎力学、大気海洋、乱流プラズマ等の分野で先端的な研究成果が数多く生まれている。卓越した研究成果として、トカマクの定常運転に対して必要な研究課題を明らかにした成果は、ITER及び将来の核融合炉に価値ある研究と評価されている。社会、経済、文化面では、地球環境に関する分野での優れた研究成果が特に多い。卓越した研究成果として、アジア地域で発生する黄砂や大気汚染物質の輸送に対する3次元大気化学輸送モデルの作成、さらに、風力エネルギーの有効利用のための超高効率風力発電システムの開発があり、高い評価を受けていることなどは、優れた

成果である。

以上の点について、応用力学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、応用力学研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

先導物質化学研究所

I	研究水準	研究 19-2
II	質の向上度	研究 19-3

1 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の教員一名当たりの平均論文数が 4.49 件であり、また、関連研究者と国内あるいは国際連携して研究を進めており、国内連携の成果としての共著論文数が平成 19 年度で 70 件ある。知的財産権については、平成 19 年度の国内成立特許件数が 14 件、国際成立特許件数が 11 件にのぼっている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数が平成 19 年度で 62 件、金額にして 2 億 4,390 万円、さらに、ほぼ同額の金額を科学技術振興機構（JST）と新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の競争的研究資金として獲得していることなどは、優れた成果である。

以上の点について、先導物質化学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、先導物質化学研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、物質化学の分子レベルの基礎化学から材料の実用基礎基盤研究までの広い分野で先端的な研究成果を上げている。卓越した研究成果として、カーボンナノチューブの熱伝導度の測定、生物呼吸鎖末端における末端酸化酵素反応解明のためのモデル分子の合成、有機電界効果トランジスタがある条件下で ambipolar 輸送性を示すことの実証等があり、国際的に評価の高い成果を上げている。社会、経済、文化面では、リチウム電池、燃料電池、複合体材料等への応用が期待されるカーボンナノファイバーに関して有用性の高い多くの成果を上げている。研究成果は、国内外の複数の企業に技術移転され、一部は商業化の準備も進んでいることなどは、優れた成果である。

以上の点について、先導物質化学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、先導物質化学研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

情報基盤研究開発センター

- I 研究水準 研究 20-2
- II 質の向上度 研究 20-3

Ⅰ 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、査読のある学会誌・国際会議議事録等に掲載された論文数は、平成18年度までの3年間は平均15.7件であるが、平成19年度に55件、教員一名当たり3.44件と増加が著しい。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金は過去4年間の平均で8.5件（金額で平均1,375万円）となっている。その他の外部資金としては、受託研究で平成19年度に2億7,200万円を受け入れているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「共同利用・共同研究の実施状況」のうち、当該センターの全国共同利用計算機システムは、全国7か所に設置されている情報基盤系センター群の中で最も大規模な計算機システムによるサービスが可能である。年度別利用登録件数は平成19年度において900件を超え、共同利用による研究成果としての論文も平成18年度には572件（口頭発表等の320件を含む）となっていることなどは優れた成果であることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、情報基盤研究開発センターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、情報基盤研究開発センターが想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、卓越した研究業績は見られなかったものの、共同研究により広い分野での成果、特に、情報通信技術及び教育研究支援技術で優れた研究成果を上げている。社会、経済、文化面では、卓越した研究業績は見られなかったものの、情報セキュリティ分野において、例えば、高等教育機関のための情報セキュリティ対策ガイドラインの検討活動を行っているなどの相応な成果である。

以上の点について、情報基盤研究開発センターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、情報基盤研究開発センターが想定している関係者の「期待

される水準にある」と判断される。

なお、提出された研究業績説明書のうち、優れた業績と判断できるものが少なかったことから、今後の自己評価能力の向上が期待される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は1件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称： 1 文学部

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【評価項目】 1 教育水準 2 教育内容</p> <p>【判断理由】</p> <p>【原文】 「学部での教育指針を明確にした<u>コア共通科目</u>・<u>コース共通科目</u>・<u>専門分野科目</u>という科目区分と・・・」</p> <p>【申立内容】 【修正文案】の通り変更願いたい</p> <p>【修正文案】 「学部での教育指針を明確にした<u>文学部コア科目</u>・<u>コース共通科目</u>・<u>専門分野科目</u>という科目区分と・・・」</p> <p>【理由】 科目名の事実誤認であるため</p>	<p>【対応】 意見のとおりとする。</p>

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称： 1 文学部

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【評価項目】 I 教育水準 5. 進路・就職の状況</p> <p>【判断理由】</p> <p>【原文】 「サービス業、製造業、金融・保険業、<u>教員、公務員</u>の順が多い。」</p> <p>【申立内容】 【修正文案】の通り変更願いたい</p> <p>【修正文案】 「<u>製造業、金融・保険業、情報通信業、サービス業、教育、学習支援業、公務</u>の順が多い。」</p> <p>【理由】 現況調査表の資料5-1-Bに示している就職状況の数字に厳密に従えば、修正文案のとおりとなる。</p>	<p>【対応】 意見のとおりとする。</p>

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称： 3 比較社会文化学府

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【評価項目】 I 教育水準 5. 進路・就職の状況</p> <p>【判断理由】</p> <p>【原文】 「・・・示されているが、<u>アンケート回答数が少ないなど、関係者集団全体の評価を示すデータが不足している。提出された現況調査表の・・・</u>」</p> <p>【申立内容】 下線部分について再考願いたい。</p> <p>【理由】 下線部分は、「水準を下回る」ことの客観的根拠ではない。アンケートは少数でも意見聴取が目的であり、その意見は水準を上回ると判断される根拠データを示している。</p>	<p>【対応】 意見を踏まえ、判定及び判断理由を修正する。</p> <p>【理由】 現況調査表を再確認し、以下のとおり修正する。</p> <p>○判断理由 「・・・示されて<u>おり、アンケートに関しては、回収率が悪いものの意見を聴取する努力はなされているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。</u>」</p> <p>以上の点について、比較社会文化学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、比較社会文化学府が想定している関係者の「<u>期待される水準にある</u>」と判断される。」</p> <p>○判定 「5. 進路・就職の状況」の判定を以下のとおり修正する。</p> <p>「<u>期待される水準にある</u>」</p>

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称： 8 法学府

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【評価項目】 1 教育水準 2 教育内容</p> <p>【判断理由】</p> <p>【原文】 「英語コース、LL.M. コースなどの優れた取組を行っていることから・・・」</p> <p>【申立内容】 【修正文案】 の通り変更願いたい</p> <p>【修正文案】 「英語コース(LL.M. コース他)などの優れた取組を行っていることから・・・」</p> <p>【理由】 LL.M. コース他(LL.M.、YLP、CSPA、LL.D.)は何れも英語コースであるため</p>	<p>【対応】 意見のとおりとする。</p>

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称： 22 薬学部

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【評価項目】 I 教育水準 4. 学業の成果</p> <p>【判断理由】</p> <p>【原文】 「・・・過去4年間の単位修得率は、平均<u>90%</u>である。・・・」</p> <p>【申立内容】 【修正文案】の通り変更願いたい</p> <p>【修正文案】 「・・・過去4年間の単位修得率は、平均<u>92%</u>である。・・・」</p> <p>【理由】 現況調査表22-21ページの資料4-1-Aより、29,830人/32,307人\div92.3%となるため。</p>	<p>【対応】 意見のとおりとする。</p>

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称： 4 経済学部・経済学研究院

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【評価項目】 Ⅱ 質の向上度 1. 質の向上度</p> <p>【原文】 <u>「外国語論文奨励制度」については、本制度の運用に関する説明が見当たらず、また、その成果として提示された論文は、卓越した水準にあるという判定はされていない点で、改善、向上しているとは言えないと判断される。</u></p> <p>【申立内容】 下線部分について再考願いたい。</p> <p>【理由】 「外国語論文奨励制度」は部局内の予算を手当てし、積極的に外国語ジャーナルへの投稿を促すために、投稿料をはじめ掲載にかかる諸経費を補助することとしたものであり、質の向上度の判断は、該当論文の水準によるものではない。 なお、制度の説明については、その記載の必要性や字数制限等により省略したものであり、また、書面調査において不明な点は、個別に照会または訪問調査時の確認事項とされることとなっていたはずである。 「質の向上度の判断」は、各事例毎の判断結果を踏まえた、総合的な段階判定が望まれる。改善・向上があった取組の事例が複数ある中で、一つでも「改善、向上しているとは言えない」とされた事例がある場合、全体の判定が同様に「改善、向上しているとは言えない」となるのは不合理である。</p>	<p>【対応】 原案のとおりとする。</p> <p>【理由】 現況調査表を再確認したところ、当該事例の取組が研究成果の向上に寄与していると記述しているが、示された研究業績だけではその成果が認められないため。 なお、評価の手続きについての意見は、申立の対象としない。</p>